

目 次

1 年次生対象授業科目

心理学概論	1
早期体験学習（多職種連携）	3
人体の構造と機能及び疾病Ⅰ（医学概論）	5

2 年次生対象授業科目

心理学統計法	7
心理学実験Ⅰ	9
心理学実験Ⅱ	11
臨床心理学概論	13
人体の構造と機能及び疾病Ⅱ（解剖学入門）	15
人体の構造と機能及び疾病Ⅲ（生理学入門）	17
人体の構造と機能及び疾病Ⅳ （生化学・分子生物学入門）	19
知覚・認知心理学	21
発達心理学	23
教育・学校心理学	25
社会・集団・家族心理学	27
心理的アセスメント	29
感情・人格心理学	31
心理学的支援法（カウンセリング概論）	33
公認心理師の職責（心理師実践職能論）	35
心理演習Ⅰ（コミュニケーション演習）	37
関係行政論（社会医学・関係行政論）	39
社会福祉論	41
生命倫理学	43
病理学・免疫学概説	45
微生物学・医動物学概説	47

3 年次生対象授業科目

心理学研究法	49
学習・言語心理学	51
神経・生理心理学	53
青年心理学	55
障害者・障害児心理学	57

心理演習Ⅳ（グループ・コミュニケーション演習）	59
福祉心理学	61
司法・犯罪心理学	63
産業・組織心理学	65
心理演習Ⅲ（心理的アセスメント演習）	67
健康・医療心理学	69
人間性心理学	71
心理演習Ⅱ（心理面接演習）	73
心理実習Ⅰ（心理支援実習）	75
人体の構造と機能及び疾病Ⅴ （心理援助職のための内科的疾患概説）	77
発達小児科学	79
精神疾患とその治療（精神医学）	81
心身医学	83
災害医学・緩和ケア	85
医療薬理学	87
臨床心理学基礎研究Ⅰ	89
臨床心理学基礎研究Ⅱ	91

4 年次生対象授業科目

心理演習Ⅴ（コミュニティ・アプローチ演習）	93
心理実習Ⅱ（チーム医療実習）	95
臨床心理学研究Ⅰ	97
臨床心理学研究Ⅱ	99
卒業研究	101

ナンバリングコード B2PSY-bdcM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780010) 心理学概論 Outline of Psychology	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 1～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bdc・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 笥 善行, 門脇 則光, 阿部 慈, 小坂信二, 黒澤 あずさ, 永尾 幸, 林 智一, 川人 潤子, 橋本 忠行, 野口 修司, 神原 憲治, 竹森 元彦, 山田 俊介	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、心理学が成立した過程・歴史、対象とする領域、研究法について説明する。また、人の心の基本的な仕組み及び働きの基礎的内容について説明する。それに加えて、医療従事者のあり方や健康に関する諸問題に触れることを通して、心理学と医療、心と身体の間連について説明する。さらに、講義全体を通して、心理援助職を旨とする者としての態度や倫理について考えを深める機会とする。			
授業の目的 1) 心理学が成立した過程・歴史、対象とする領域、研究法について理解する。 2) 人の心の基本的な仕組み及び働きの基礎的内容について理解する。 3) 心理学と医療、心と身体の間連について理解する。 4) 心理援助職を旨とする者としての態度や倫理について認識する。			
到達目標 1) 心理学の成り立ちについて説明することができる (DP「知識・理解」に対応)。 2) 人の心の基本的な仕組み及び働きについて説明することができる (DP「知識・理解」に対応)。 3) 心理学と医療、心と身体の間連について説明することができる (DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。 4) 心理援助職を旨とする者としての態度や倫理について説明することができる (DP「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法 各授業のミニレポート (20%) および学期末試験 (80%) により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回 心理学と医療Ⅰ 笥 善行(学長) (合同授業) 第2回 心理学と医療Ⅱ 竹森元彦 第3回 心理学と医療Ⅲ 門脇則光(病院長) (合同授業) 第4回 心理学と医療Ⅳ 阿部 慈(看護部長) (合同授業) 第5回 心と身体の間連Ⅰ 小坂信二(薬剤部長) (合同授業) 第6回 心と身体の間連Ⅱ 黒澤あずさ(ダイバーシティ推進室) (合同授業) 第7回 心と身体の間連Ⅲ 永尾 幸/大塚美菜子(保健管理センター) (合同授業) 第8回 心理学とは・心理学の成り立ち 野口修司 第9回 認知・学習 川人潤子 第10回 感情・人格 橋本忠行 第11回 発達 林 智一 第12回 社会・集団 野口修司 第13回 脳の間連と心の間連 神原憲治 第14回 心理臨床Ⅰ 竹森元彦 第15回 心理臨床Ⅱ 山田俊介			

【授業及び学習の方法】

授業内容の理解度をみるために毎回、授業終了時にミニレポートを提出し、レポート提出をもって出席とみなす。遅刻者に対しては遅刻時間に応じた減点を科す。授業を聞きながらレポートを書くことになるため、相当の集中力を要する。遅れて提出されたレポートは採点対象外となる。

教科書は各自で読み進めておくこと。授業内容に興味をもったら、積極的に関連の本を読むことをすすめる。改めて講師に質問したい場合は、必ず事前にアポイントを取ることを。

なお、本授業は基本的に対面授業を行うが、状況によっては遠隔授業へ変更となる。

【自学自習のためのアドバイス】

授業の前には予習（各回2時間程度の事前学習）をし、それを踏まえて授業の内容を確認してください。また、授業の後には復習（各回2時間程度の事後学習）をすることで、内容をしっかりと理解することを心がけましょう。

教科書・参考書等

加藤博通・川田 学（編著） 心理学概論 歴史・基礎・応用 ミネルヴァ書房 2020（¥2,200+税）

オフィスアワー オムニバス方式のため、各担当教員に確認のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

15回のうち6回は医学科・看護学科との合同授業であり、臨床講義棟2階講義室で実施する。離れた教室への移動となるので開始時間に遅れないように行動すること。合同授業の一部は3大学連携事業の一環として実施する。

学期末試験は、第8回～第15回の範囲で出題する。

教員の実務経験との関連

本授業では、医師、看護師、臨床心理士等それぞれの実践に携わってきた専門家が、それぞれの実務経験を踏まえてオムニバス形式で講義を行っていく。

ナンバリングコード B2MED-beaM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード:780070) 早期体験学習 (多職種連携) Early Exposure to Medicine (Interprofessional Education:IPE)	科目区分	時間割 後期水1~2	対象年次及び学科 1~ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bea・M	対象学生・特定プログラムとの対応 2 O
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 神原 憲治, 角 徳文, 野口 修司, 横平 政直, 坂東 修二, 川人 潤子	関連授業科目 医学概論		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・実習90分 × 30回 + (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
将来心理援助職になるにあたり、基本的な医学的知識を得ること、および、地域援助の一環として地域の医療・高齢者福祉の現場を入学後早期に体験することは非常に意義深いことである。			
まず、地域の医療福祉機関に出向く前に、必要なマナーや実習目的などを、医学科学生と共にグループワークを通じて検討する。その上で、高松市およびその周囲の医療機関、および福祉施設での臨地実習を行う。臨床心理学科単独でのPBL(Problem-based learning)チュートリアルでは、臨地実習において心理援助者を目指す者として学んだことをシェアし、さらに、課題発見・解決能力を修得するために、想定される症例シナリオを用いて、チューターの指導の下に小グループでのディスカッションと発表を行う。			
上記を通して、心理援助職としての問題意識やモチベーションを高め、あるべき姿勢を学ぶ機会とする。			
授業の目的			
まず、以降の講義・実習を理解しやすくするために、人体の基本的構造と機能、および日常的によく見られる疾患についての知識を習得する。実習では医学科学生と合同で実習に必要な項目についてのグループワークを行った後に、地域医療、介護福祉の現場に触れて、心理援助職としてのあるべき姿勢を学んでいく。			
PBLチュートリアルでは、提示された課題(症例)について解決すべき問題点を抽出し、その解決に向けてディスカッションを行う。これらの体験学習を通して、心理援助職としての臨床イメージを膨らませ、以後の学習へのモチベーション			
到達目標			
1. 身体の大まかな構造と機能を説明できる。(DP「言語運用能力」「知識・理解」に対応)			
2. 日常的によく遭遇する疾患について簡単に説明できる。(DP「言語運用能力」「知識・理解」に対応)			
3. 地域医療の現場に接し、心理援助職となるための基本的な心構えを習得する。(DP「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」、「地域理解」に対応)			
4. 高齢者医療福祉の特徴を介護・福祉の現場を通じて理解する。(DP「言語運用能力」「知識・理解」に対応)			
5. 心理援助職として、医学と心理臨床領域にまたがる症例について検討しプレゼンテーションができる。(DP「言語運用能力」「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法			
出席毎のミニレポート(30%), PBLのチューター評価(30%), 実習参加によるレポート(40%)により評価する。なお、グループワーク、学外実習、学外実習発表会準備、学外実習発表会、チュートリアル及びその発表会の参加は必修である。 ※講義の性格上、テストは実施せず、授業と実習に参加してのレポートが評価の全てとなるので、注意してください。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。			
秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。			
優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。			
良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。			
可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。			
不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。			
合格又は了		到達目標を達成している。	
不合格		到達目標を達成していない。	
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】			
講義は必要最小限とし、まずグループワークを通じて、学外実習の意義、医療機関や介護老人保健施設を訪問する際のマナー、礼節、および個人情報保護などについて基本的事項を習得する。			
学外実習は午前半日2週×2回行う。全体を半分に分け、前2回と後2回(医療機関2週→介護老人保健施設2週、又			

は介護老人保健施設2週→医療機関2週)としていずれも体験する。実習場所は、インターネットなど様々な情報を自分で取得し、自主的に実習先を決定する。実習後は、そこで学んだことを個々にレポートとしてまとめ、それを基にして講義の最後で全体発表会を行い、個人の経験をできる限り全体として共有する。

PBLチュートリアルでは、まず実習において、心理職として学んだことをシェアしてディスカッションする。次に、医療及び教育臨床現場で想定される症例シナリオを用いて、チューターの指導の下に小グループでの課題抽出とディスカッションを行い、グループでまとめて発表を行う。

○この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。

○上記実習については、医療・福祉施設の状況によって、回数が減る、もしくは、代替講義等に置き換えることがあります。

【授業計画】

第1回 オリエンテーション／からだを知ろう 1 ※

第2回 からだを知ろう 2 ※

第3回 高齢者の福祉施設について ※

第4回 学外実習の説明 ※

第5, 6回 実習場所の選択 ※

第7, 8回 グループワーク ※

第9, 10回 学外実習 1-1 ※

第11, 12回 学外実習 1-2 ※

第13, 14回 PBLチュートリアル 1, 2

第15, 16回 学外実習 2-1

第17, 18回 学外実習 2-2

第19回 学外実習のまとめ ※

第20回 PBLチュートリアル 3

第21, 22回 PBLチュートリアル 4, 5

第23, 24回 PBLチュートリアル 6, 7

第25, 26回 PBLチュートリアル 8, 9

第27回 学外実習発表準備 ※

第28回 PBLチュートリアル発表会

第29, 30回 学外実習発表会 ※

(※は医学科と合同、その他は臨床心理学科単独で行う)

【自学自習のためのアドバイス】

・医学的な内容を含むため、事前の予習と、講義の後に不明点等を復習して(事後学習)、よく理解した上で学外実習に臨むことが重要です。

・PBLチュートリアルでは、グループ学習で抽出された課題について自学自習を行い、それを元にディスカッションを行うため、自学自習が特に重要です。情報検索等の方法については、PBLチュートリアルの初回に提示します。

◎計画に関しては、施設の事情や進捗状況等によって変更することがあります。

教科書・参考書等

各回担当講師が必要に応じて提示する。

オフィスアワー 基本的に水曜日午前中が望ましいが詳細は各教員に相談の事。その他、事前にアポイントメントにより対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習に際しては、事前の講義時の注意事項を遵守してください。特に、連絡なしの欠席や遅刻は厳禁です。医療、介護、福祉等の現場では現場担当者の指示に従い行動してください。当然ながら守秘義務も発生します。社会人として常識のある行動が求められます。

教員の実務経験との関連

医師、心療内科医、精神科医、心理職としての各臨床経験をもとに分担して講義及び実習を行います。

ナンバリングコード B2MED-bdxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780080) 人体の構造と機能及び疾病 I (医学概論) Structure and Function of Human Body, and Diseases I (Introduction to Medicine)	科目区分 水準・分野 B2MED 授業形態 Lx	時間割 後期水3 DP・提供部局 bdx・M 単位数 2	対象年次及び学科 1～ 医(看・臨) 臨床心理学科 対象学生・特定プログラムとの対応 2 O				
担当教員名 角 徳文, 神原 憲治	関連授業科目 履修推奨科目						
学習時間 講義90分 (ディスカッションを含む) × 15回 + 自学自習(事前学習30時間+事後学習30時間)							
授業の概要							
<p>「医学的素養を有した心理援助者」を目指す本学科の特徴である医学系科目における概論講義です。医療の中での多職種連携を行うために共通言語として医学の基本を学ぶことが求められます。2年次以降より専門的に学ぶこととなりますが、その入門編として医学全般を俯瞰し、医学の構造を理解するとともに、共通言語としての専門用語にも触れることが本授業の概要です。</p>							
授業の目的							
<p>医学的素養を有する心理援助を学ぶために主に下記を目的として授業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史を含む医学の概要を理解し、基礎医学、臨床医学、社会学についての意味を説明できる。 2. 生理系、病理系において看護師や理学・作業療法士らコメディカルスタッフとの共通の医学用語を説明できる。 3. 病因としての環境、文化、遺伝、感染等の概念を具体的に提示し説明できる。 4. 医療現場で遭遇する代表的な疾患について、簡単に説明できる。 5. 主なコメディカルの名称、役割などの概要を説明できる。 6. 医療に関する主な法律の概 							
到達目標							
<p>医学(医療)は一般に基礎医学、臨床医学、社会医学の3つの領域に分類されます。基礎医学は医学の歴史、生理学、解剖学、病理学等が含まれます。臨床医学では診断学の基本や、様々な病気について疾患の基礎を理解してもらいます(DP「知識・理解」に対応)。さらには病院の現場で行われている医療についての実際や、予防医学・社会学等の側面、法律を概観することで、「医学(医療)とは何か」、「医学では何か問われているか」という全容を理解していただきます(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」、「問題解決・課題探究能力」に対応)。</p>							
成績評価の方法							
テスト、レポート等の評価を担当者ごとに行って総合します。							
成績評価の基準							
<p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">合格又は了</td> <td>到達目標を達成している。</td> </tr> <tr> <td>不合格</td> <td>到達目標を達成していない。</td> </tr> </table>				合格又は了	到達目標を達成している。	不合格	到達目標を達成していない。
合格又は了	到達目標を達成している。						
不合格	到達目標を達成していない。						
授業計画並びに授業及び学習の方法							
<p>() 内は担当教員です。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1回 医学の基本 (角)</p> <p>第2回 医学の歴史 (神原)</p> <p>第3回 人体の構造と機能 (角)</p> <p>第4回 環境・文化と人間の健康 (神原)</p> <p>第5回 病気の基本 (角)</p> <p>第6回 病院・病態別の病気の分類 (神原)</p> <p>第7回 器官・領域別の病気の種類 (角)</p> <p>第8回 病気の診断 (角)</p> <p>第9回 病気の治療と予防 (角)</p> <p>第10回 医療の基本 (角)</p> <p>第11回 医療の現場 (角)</p> <p>第12回 社会医学の視点: 公衆衛生学 (角)</p> <p>第13回 予防医療 (角)</p>							

第14回 社会の医療情勢と医療体制（角）

第15回 医療法規と医療行政（角）

【授業及び学習の方法】

講義は教科書とプリント、スライド、板書等を用いて行う。

【自学自習のためのアドバイス】

医学は臨床心理学科の学生には慣れない分野であるため、自学自習を十分行うことが必要です。

教科書の該当部分を学習（予習・復習）しておいてください。

○この科目は基本的に対面授業を予定しています。なお状況によっては授業形態を一部または全てを遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

<教科書>医学概論（中島泉著, 南江堂, 2015）

※私の担当講義では特に教科書は不要です（角）

<参考書>「病気が見える」シリーズ（医療情報科学研究所, 2017）

このシリーズは医学生、看護学生を含む全ての医療系学生向けに書かれている本です。

オフィスアワー 火曜日 終日（ただしアポイントメントお願いします）（基礎臨床研究棟）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主に授業には教科書を参考にして授業を進める予定ですが、高度な知識は求めません。

※（角）担当授業では特に準備や教科書も不要です。

出席は3分の2未満で試験の受験資格を失うことになるので注意してください。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2PSY-cbaM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 780030) 心理学統計法 Psychological Statistics	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cba・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子	関連授業科目 統計学, 心理学実験Ⅰ, 心理学実験Ⅱ, 心理学研究方法, 臨床心理学基礎研究Ⅰ, 臨床心理学基礎研究Ⅱ, 臨床心理学研究Ⅰ, 臨床心理学研究Ⅱ, 卒業研究		
	履修推奨科目 統計学, 心理学実験Ⅰ, 心理学実験Ⅱ		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 心理学の研究を行う場合、心理学統計法の知識が不可欠です。なぜなら、研究計画を立案するためには、統計学の知識をもとに研究論文の内容を正しく理解する必要があるからです。また、研究で得られた量的データの多くは、統計手法を用いて解析します。この授業では、心理学における統計学の特徴・手続き・留意点を理解し、演習を通して統計解析技術を学びます。特に演習では、パソコンで統計解析ソフト(SPSSなど)を用いて、データを実際に解析します。この授業を通して、心理学実験Ⅰ、心理学実験Ⅱ、卒業研究に必要な知識の習得を目指します。			
授業の目的 心理学研究の中で用いられている統計的手法がどのようなものか理解し、そこで示されている結果を正しく理解することを目指します。また、適切な心理統計を選択し、データを解析できるようになることを目的とします。			
到達目標			
1. 心理統計学の基礎的知識を理解し、説明することができる(DPの「知識・理解」, 「言語運用能力」に対応)。 2. 心理統計学を利用した研究の結果を解釈できる(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 3. 研究目的によって、適切な心理統計を具体的に述べるすることができる(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 4. 統計解析ソフトを適切に使用することができる(DPの「知識・理解」に対応)。			
成績評価の方法 事前課題10%(特に到達目標1に対応), 小テスト20%(特に到達目標2, 3に対応), 中間テスト30%(特に到達目標2, 3, 4に対応), 最終テスト30%, 授業態度10%(到達目標全てに対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 この授業では、講義に加え、演習を含めた個人ワークを行います。また、毎回事前学習と小テストを実施します。この科目は、基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
1. オリエンテーション【講義と小テスト】 2. 記述統計の基礎【講義と小テスト】 3. 正規分布とデータの標準化【講義と小テスト】 4. ピアソンの積率相関係数【講義と小テスト】 5. 推測統計の基礎【講義と小テスト】 6. 帰無仮説, 有意水準【講義と小テスト】 7. 2項検定, カイ二乗検定【講義と小テスト】 8. 復習と中間テスト 9. t検定【講義と小テスト】 10. 1要因分散分析【講義と小テスト】 11. 2要因分散分析【講義と小テスト】 12. 多変量解析1: 単回帰分析, 重回帰分析【講義と小テスト】 13. 多変量解析2: 因子分析, クロンバックの α 係数【講義と小テスト】			

14. 多変量解析3：共分散構造分析【講義と小テスト】
15. まとめと最終テスト

【自学自習について】

毎回事前学習を課しますので、授業前に実施してください。(30時間)

第8回と第15回では、対面でミニテストを課しますので、復習をして臨んでください。(30時間)

教科書・参考書等

教科書：山田剛史・村井潤一郎(2004)．よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房 2,800円＋税

参考書：森 敏明・吉田寿夫(1990)．心理学のためのデータ解析テクニカルブック 北大路書房 3,592円＋税

各回の資料はMoodleより配布します。

オフィスアワー 三木キャンパス講義棟3階 火曜日昼休み

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業は毎回小テストへの回答をもって、出欠をとります。病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。

予習復習をして授業に臨んでください。

授業ではパソコンを使用しますので、ご自分のパソコンやUSB等の記憶媒体を持参してください。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2PSY-cbaM-20-Pg 授業科目名 (時間割コード: 780040) 心理学実験 I Psychological Experiment I	科目区分	時間割 前期木2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cba・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Pg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子	関連授業科目 統計学, 心理学統計法, 心理学実験Ⅱ, 心理学研究法, 臨床心理学基礎研究Ⅰ, 臨床心理学基礎研究Ⅱ, 臨床心理学研究Ⅰ, 臨床心理学研究Ⅱ, 卒業研究		
	履修推奨科目 統計学, 心理学統計法, 心理学実験Ⅱ		
学習時間 講義90分×12回 + 実習90分×3回 + 自学自習(レポート作成; 準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、心理学の研究法の一つである実験法を用いて、得られたデータを客観的事実に基づいて記述する技能を身につけることを目標とします。具体的には、3つの実験を通して、データを解析し、レポートを記述することにより、心理学研究を行うために必要な基本的技能を学んでいただきます。			
授業の目的 この授業では、心理学実験の概要について学ぶとともに、心理学実験を遂行する力を身につけることを目的とします。心理学実験の概要については、心理学実験の考え方とデータ処理の方法について理解することが不可欠です。授業では、過去の心理学実験の追試を行う実習を通して、実験の背景にある考え方を理解し、実験を遂行して結果をまとめる技能を身につけます。			
到達目標			
1. 心理学実験の考え方を説明することができる (DPの「知識・理解」, 「言語運用能力」に対応)。 2. 心理学実験を遂行することができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 3. データを分析することができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 4. 心理学研究のフォーマットに則って、実験結果をレポートにまとめることができる (DPの「知識・理解」, 「言語運用能力」に対応)。			
成績評価の方法 レポート80% (特に到達目標1, 4に対応), 実習態度20% (主に到達目標2, 3に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 グループで協力しながら、3種類の実験を行います。 第1回 オリエンテーション: 科学としての心理学 第2回 レポートの書き方とSPSSのDL 第3回 ミュラー・リエル錯視 (1): 測定, 方法の記述について 第4回 ミュラー・リエル錯視 (2): ピアレビュー, 結果の解析, 結果の記述について 第5回 ミュラー・リエル錯視 (3): ピアレビュー, 問題の記述について 第6回 ミュラー・リエル錯視 (4): ピアレビュー, 考察・引用文献の記述について 第7回 触2点域 (1): 測定, 方法の記述について 第8回 触2点域 (2): ピアレビュー, 結果の解析, 結果の記述について 第9回 触2点域 (3): ピアレビュー, 問題の記述について 第10回 触2点域 (4): ピアレビュー, 考察・引用文献の記述について 第11回 訓練の転移 (1): 測定, 方法の記述について 第12回 訓練の転移 (2): ピアレビュー, 結果の解析, 結果の記述について 第13回 訓練の転移 (3): ピアレビュー, 問題の記述について 第14回 訓練の転移 (4): ピアレビュー, 考察・引用文献の記述について 第15回 まとめ この科目は、基本的に対面授業を行います。			

なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習について】

この授業では、グループで行った実験について、個人でレポートにまとめます。
授業期間内に計3つのレポートを作成します。(60時間)

教科書・参考書等

教科書：宮谷真人・坂田省吾（編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 2,800円+税
各回の資料はMoodleより配布します。

オフィスアワー 三木キャンパス講義棟3階 火曜日昼休み

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

心理学のテーマで卒業論文を書く場合に必要となる知識・技能を習得することを目指します。
なお、受講生はレポートの執筆にあたり、下記URL「執筆・投稿の手びき（日本心理学会）」を適宜参照してください。

<https://psych.or.jp/publication/inst/>

授業中にパソコンで作業をしますので、ご自身のパソコンやUSBメモリー等の記憶媒体を必ず持ってきてください。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2PSY-cbaM-20-Pg 授業科目名 (時間割コード: 780050) 心理学実験Ⅱ Psychological Experiment Ⅱ	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 2～医(看・臨) 臨床心理学
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cba・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Pg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子	関連授業科目 統計学, 心理学統計法, 心理学実験Ⅰ, 心理学研究方法, 臨床心理学基礎研究Ⅰ, 臨床心理学基礎研究Ⅱ, 臨床心理学研究Ⅰ, 臨床心理学研究Ⅱ, 卒業研究		
	履修推奨科目 統計学, 心理学実験Ⅰ, 心理学統計法		
学習時間 講義90分×11回 + 実習90分×4回 + 自学自習(レポート作成等; 準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 心理学研究方法の一つである調査法について, その理論や手続きを概説します。授業では, グループごとに研究計画を立案・実施し, 心理学的調査を行うための技能を体験的に学習します。			
授業の目的 この授業では, 心理学的な調査研究の概要について学ぶとともに, 調査研究を遂行する能力を身につけることを目的とします。授業では, グループごとに調査研究の計画を立案・実施することを通して, 調査法の背景にある考え方と調査結果をまとめる技能を身につけます。			
到達目標			
1. 心理学的な調査研究の考え方を説明することができる (DPの「知識・理解」に対応)。 2. 心理学的な調査研究を遂行することができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 3. 心理学研究のフォーマットに則って, 調査結果をレポートにまとめることができる (DPの「言語運用能力」に対応)。 4. 自ら心理学の研究を立案, 実施することができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 5. グループで協力して活動することができる (DPの「言語運用能力」に対応)。			
成績評価の方法 レポート60% (特に達成目標3に対応), 発表20% (特に達成目標1, 5に対応), 実習態度20% (全ての達成目標に対応) ただし, グループで活動するため, 授業と活動への参加が前提です。			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
グループで協力しながら調査の計画立案と実施を行います。 第1回 オリエンテーション 第2回 質問紙法の概要 第3回 心理測定尺度の概要 第4回 心理測定尺度の探し方・使い方 第5回 質問紙の作成方法 第6回 予備調査の計画: 調査の準備 第7回 予備調査の実施: 調査の実査 第8回 予備調査の分析 (1): 統計分析の復習 第9回 予備調査の分析 (2): 統計分析の復習・本調査の計画: 調査準備 第10回 本調査の実施: 調査の実査 第11回 本調査の分析: 統計分析の復習 第12回 レポートの作成 第13回 レポートの作成・発表準備 (1): 結果の検討 第14回 レポートの作成・発表準備 (2): 問題・考察の検討 第15回 プレゼンテーション			

この科目は、基本的に対面授業を行います。
なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習について】

この授業では、グループごとに独自に研究計画を立て、調査を実施します。(20時間)
研究計画を立てるためには、多くの文献を調べて、ディスカッションを行う必要があります。
授業中にも作業の時間は確保しますが、授業時間外にもグループでの作業を積極的に行ってください。(40時間)

教科書・参考書等

教科書：宮谷真人・坂田省吾（編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 2,800円＋税
各回の資料はMoodleより配布します。

オフィスアワー 三木キャンパス講義棟3階 月曜日昼休み

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

心理学のテーマで卒業論文を書く場合に必要となる知識・技能を習得することを目指します。
なお、受講生はレポート執筆にあたり、下記URLの「執筆・投稿の手びき（日本心理学会）」を適宜参照してください。

<https://psych.or.jp/publication/inst/>

授業中にパソコンで作業をしますので、ご自身のパソコンやUSBメモリー等の記憶媒体を必ず持ってきてください。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2PSY-bdcM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 780060) 臨床心理学概論 Introduction to Clinical Psychology	科目区分	時間割 前期木1	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bdc・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 竹森 元彦	関連授業科目 カウンセリング概論		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要			
臨床心理学について、歴史や事例、発達理論・人格理論、対象の理解と援助の方法などの基本的な知識について講義を行う。また、カウンセリングの演習を行って、カウンセリング的なコミュニケーションについて体験をする。臨床心理学の基礎的な学習と演習を通して、臨床心理学の基本的な問題や知識、心理援助者として倫理観・社会的責任の態度や姿勢について学び、身につけることができる。			
授業の目的			
臨床心理学の授業は、人とのコミュニケーションや対人援助をめざす発達臨床コースのカリキュラムにおいて重要な位置にある。臨床心理学の講義とグループ演習を通して、人の心の理解の仕方や関わり方について学習する。その結果、人とかかわる仕事についたり、援助をする仕事をめざす上での基礎的な知見、倫理観・社会的役割の姿勢や態度を身につけることができる。			
到達目標			
1. 心とは何か、人と人の関わりとは何かについて、臨床心理学の知識や理論から説明することができる。(DP「知識・理解」に対応) 2. グループでの演習や振り返りを通して、自分の学びについて説明することができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 臨床心理学の基本的な知識や理論を、人を援助する際に生かすことができる。(DP「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法			
小レポート50%、最終レポート50%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業及び学習の方法】印刷物を配布して、それに沿って行う。 授業で取り上げた内容について、その都度、課題を課すので、図書館にて図書や文献を調べること。 毎回小レポートを課す。			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション(授業の進め方、内容、成績評価、臨床心理学とは)			
第2回 臨床心理学の分野とは? 対象とする人は?			
第3回 心理面接の流れ、カウンセリングとは、精神的な病や心理的不適応とは、専門職の職責			
第4回 心理面接の理論 来談者中心療法、 *LIVE カウンセリング			
第5回 心理療法の理論 精神分析・対象関係論			
第6回 心理療法の理論 行動療法・認知行動療法			
第7回 振り返りセッション・レポート			
第8回 心理療法の理論 家族療法・コミュニティアプローチ			
第9回 ナラティブ・アプローチ、日本の心理療法			
第10回 箱庭療法、トラウマ 心理相談室、箱庭に触れる。			
第11回 心理アセスメントとフォードバック、心理臨床家に求められる倫理、伝え方			
第12回 教育分野・子育てにおける心理臨床 不登校、いじめ、発達障害			
第13回 医療分野における心理臨床			
第14回 福祉・司法分野の心理臨床			
第15回 振り返りセッション・レポート			

<p>【自学自習のためのアドバイス】</p> <p>第1回 臨床心理学を学ぶ上での、自分の経験などを踏まえて、具体的な問題意識を考察する（2時間）</p> <p>第2～3回 臨床心理学の分野で、専門家になるためには、どのような力が求められるのか、学ぶべき重要な点は何かをまとめる（3時間）</p> <p>第4～6回 理論別にさらに詳細に調べ学習を行い、考察する。（5時間）</p> <p>第7回 他の人との話し合いを通じて気づいたことを振り返り、まとめる、考察する。（3時間）</p> <p>第8～10回 理論別にさらに詳細に調べ学習を行い、考察する。（5時間）</p> <p>第11回 心理アセスメントと倫理について、調べ学習を行い、考察する（2時間）</p> <p>第12～14回 分野別にみて、その場に求められる実践家の力と共に、何を学ぶべきか、どのように学ぶべきか、その重要な点は何かなどをまとめる、考察する（5時間）</p> <p>第15回 他の人との話し合いを通じて気づいたことを振り返り、まとめる、考察する。（3時間）</p>
<p>教科書・参考書等</p> <p>テキスト：購入のこと。よくわかる臨床心理学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）ミネルヴァ書房 3240円 参考図書：臨床心理学概論（公認心理師の基礎と実践）（遠見書房）</p>
<p>オフィスアワー オフィスアワー 木12：15-13：00</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p> <p>印刷資料を用いながら進めます。テキストも参照します。レポートなどが適時出ます。対面実施の予定。</p>
<p>教員の実務経験との関連</p> <p>精神神経科クリニックに非常勤勤務。主に、カウンセリングを担当している。その実務経験をもとに、臨床心理学概論の講義を行います。臨床心理士、公認心理師。</p>

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780090) 人体の構造と機能及び疾病Ⅱ (解剖学入門) Structure and Function of Human Body, and Diseases Ⅱ (Introduction to Anatomy)	科目区分 水準・分野 B2MED 授業形態 Lx	時間割 前期前半水2 DP・提供部局 bcx・M 単位数 1	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学 対象学生・特定プログラムとの対応 20
担当教員名 荒木 伸一, 三木 崇範	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
解剖学は、正常の人体の構造・仕組みを形態学的な側面から理解することであり、その知識は医学および医療に関連する全分野において必要とされ、医学の中でも最も基礎的な学問である。この授業では、臨床心理学が関わる様々な医学分野の基盤として「解剖学の基礎：人体の成り立ち」を講義形式で学ぶ。			
授業の目的			
正常の人体の構造・仕組みを理解することは、臨床心理学を修めるうえで必要となる医学系科目の基礎として必須である。人体の成り立ちを細胞レベルから器官・系統へと階層的に理解し、更に構造と機能の関連、病気との関わり、心と身体の問題について考察する能力を培う。			
到達目標			
1. 解剖学とはどういう学問かを説明できる (DP 「知識・理解」に対応)。 2. 人体を構成する細胞と組織について説明できる (DP 「知識・理解」に対応)。 3. 各器官・系統の構造を機能と関連づけてを説明できる (DP 「知識・理解」に対応)。 4. 人体の構造と病気、心の問題の関係を考察することができる (DP 「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
成績評価の方法			
評価方法 到達目標に照らし、期末テスト (評価配分90%) (到達目標1から4に対応), 課題レポートの評価 (評価配分10%) (主に到達目標2, 3に対応) で評価する。 未提出の課題レポートがある場合は、不合格となります。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔授業へ変更する可能性があります。 【授業計画】 第1回：解剖学とは 細胞、組織から器官、系統 (荒木) 第2回：骨と筋：運動器系 (川合) 第3回：消化と吸収：消化器系 (荒木) 第4回：呼吸と循環：循環器・呼吸器系 (江上) 第5回：脳と神経：中枢神経系・末梢神経系 (自律神経系含む) (鈴木) 第6回：感覚：感覚器系 (特殊感覚、体性感覚、内臓感覚) (太田) 第7回：泌尿器：腎臓と尿路系 (三木) 第8回：生殖器：男性・女性生殖器と妊娠 (三木) 【授業及び学習の方法】 教科書とPowerPointで講義を行います。教科書を読むなどの事前準備を行ってください。 この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【自学自習のためのアドバイス】 各回の事前学習として学習する範囲のテキストをしっかりと読むこと (15時間)			

各回の事後学習としてテキストを見直し、宿題（課題レポート）などを行う（15時間）
教科書・参考書等 教科書 公認心理師カリキュラム準拠 人体の構造と機能及び疾患、武田克彦、岩田淳、小林靖編、医歯薬出版株式会社、2019年、3,200円＋税
オフィスアワー 月曜日 12～13時 基礎臨床研究棟 5F 組織細胞生物学 anatomy2-m@kagawa-u.ac.jp 月曜日 12～13時 基礎臨床研究棟 5F 神経機能形態学 anatomy1-m@kagawa-u.ac.jp 質問・相談は随時可能ですが、メール等でアポイントメントを取って来てください。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義の前に、その範囲の教科書を読んで予習をしてきてください。
教員の実務経験との関連 なし

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780100) 人体の構造と機能及び疾病Ⅲ (生理学入門) Structure and Function of Human Body, and Diseases Ⅲ (Introduction to Medical Physiology)	科目区分 水準・分野 B2MED 授業形態 Lx	時間割 前期後半月1 DP・提供部局 bcx・M 単位数 1	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学科 対象学生・特定プログラムとの対応 20
担当教員名 平野 勝也, 藤原 祐一郎	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 “心”と“体”の状態は相互に影響を及ぼします。脳の活動は心の状態に直結するとともに、心と体の相互作用に中心的な役割を果たしています。一方、体の状態は、様々な調節機構によってその恒常性が保たれています。前半4コマの講義では、生体の恒常性を維持する自律神経系と内分泌系の働きについて講義し、心の状態が反映される体の機能の代表として循環器系について解説します。後半の4コマの講義では、脳の電気的活動を司る神経細胞の興奮と伝達機構について総論的に講義し、高次脳機能、感覚機能、運動機能について各論として取り上げて解説します。			
授業の目的 体の機能とその動作の仕組みを理解する。 1. 生体の恒常性維持の基本的な仕組みを理解する。 2. 臨床心理学の礎となる脳における情報処理機構としての、脳の機能を理解する。			
到達目標			
1.自律神経系の構造と機能について説明することができる。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応) 2.体液性調節機構の構造と機能について説明することができる。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応) 3.心臓血管系の機能とその調節機構について説明することができる。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応) 4.脳の電気的活動について説明することができる。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応) 5.「脳への情報入力」「脳での情報統合」「脳からの情報出力」機構の概要について説明することができる。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法			
期末テスト100% ※ 期末テストの受験資格を得るためには講義の3分の2以上(6回)の出席が必要です。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 恒常性の生理学 (平野勝也) 1. 生体の自律神経性調節: 闘争か逃避か反応 (対面+遠隔) 2. 生体の体液性調節①: ストレス応答 (対面+遠隔) 3. 生体の体液性調節②: 体液・代謝調節 (対面+遠隔) 4. 循環器系の制御機構: 心臓と血管の働き (対面+遠隔) 神経生理学 (藤原祐一郎) 5. 神経細胞の興奮と伝達 (対面+遠隔) 6. 運動機能 (筋肉の収縮) (対面+遠隔) 7. 感覚機能 (特殊感覚、体性感覚) (対面+遠隔) 8. 高次脳機能 (機能局在、記憶と睡眠) (対面+遠隔) 【授業及び学修の方法】			

講義資料、PowerPointなどを用いて教員が講義形式で授業を行います。
恒常性の生理学ではストレス学説に関するレポート課題を提示します。
循環器系の授業では、血圧と脈拍測定の実習も行います。
神経生理学では、各自で出来る感覚機能の実習も行います。

講義は対面と遠隔を併用します。収録した対面講義を遠隔講義の教材とします。
教材はWebClassを通じて配布します。

【自学自習に関するアドバイス】

日常において、脳神経の活動を意識しながら生活する。心理と結びつけて考えることができれば尚良い。
講義の内容について、参考書の該当箇所を事前に学習し（準備学習15時間）、事後学習（15時間）にて心と体の連関について自らの理解を深めることが重要です。

教科書・参考書等

教科書：特に指定しません。

参考書：

生きているしくみがわかる生理学 大橋俊夫・河合桂子著 医学書院 ISBN978-4-260-02833-2

脳科学の教科書「神経編」、理化学研究所脳科学総合研究センター編、岩波書店 ISBN13-9784005006809

標準生理学第9版 医学書院 ISBN978-4-260-03429-6

オフィスアワー 【事前の約束なしに研究室を訪問できる時間帯】

平野勝也：木曜日5時限目

藤原祐一郎：月曜日5時限目

【研究室の場所】

三木町医学部キャンパス 基礎臨床研究棟6階

自律機能生理学（平野勝也）・分子生理学（藤原祐一郎）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

平野勝也

授業においては双方向性の講義を心がけます。講義内容について教員に質問したり、討論して講義に積極的に取り組んでください。

研究室ホームページ：<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~cardiovasc-physiol/index.html>

メールアドレス：hirano.katsuya@kagawa-u.ac.jp（個人）・physiol2@kagawa-u.ac.jp（研究室）

藤原祐一郎

出席が原則です。

教員の実務経験との関連

平野勝也

1985年に医学部を卒業し、2年間の循環器内科医としての臨床修練の後に、基礎研究に従事し、以来30年以上にわたり循環器領域の生理学を専門にします。特に、血圧や臓器血流を調節する血管内皮細胞や平滑筋細胞の働き、血液凝固と循環器病との関連を明らかにする研究を行っています。臨床経験と基礎医学研究の実績をもとに医科生理学の教育を担当しています。自主的に研究活動に参加する学生も受け入れています。事実と意見を明確に区別する科学的姿勢の育成を主眼にして、学部大学院教育に当たっています。

藤原祐一郎

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780110) 人体の構造と機能及び疾病Ⅳ (生化学・分子生物学入門) Structure and Function of Human Body, and Diseases Ⅳ(Introduction to Biochemistry and Molecular Biology)	科目区分	時間割 前期前半金1	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bcx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 2 O
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 上田 夏生, 神鳥 成弘, 野中 康宏, 小川 崇	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 8回 + 自学自習 (準備学習 12時間+事後学習18時間)			
授業の概要			
生化学と分子生物学は、出生、成長、老化、健康増進、病気、遺伝など、さまざまな生命現象を原子や分子といった物質レベルで理解しようとする学問で、生命科学(ライフサイエンス)の基盤となるものです。心理援助者が接する患者やクライアントの症状、病因、治療法などを理解するうえで必要となる医学的知識の根源をなすもののひとつと言えます。本授業では、人体に関する生化学と分子生物学の基礎知識と、物質レベルでの生命現象の捉え方を学習し、それらがさまざまな疾患を含む医学全般の理解に必須であることの認識を深めることを目標とします。授業は4名の教員が分担する講義で、その内容には生体分子の種類と構造、酵素の働き、物質代謝と生体エネルギー、タンパク質と核酸の構造と機能、遺伝情報の維持と発現、生理活性物質と細胞情報伝達機構などが含まれます。			
授業の目的			
人体におけるすべての生命現象が物質とその化学的変化によって生じることを理解する。 そのために必要な生化学・分子生物学の基礎知識を修得する(DP「知識・理解」)			
到達目標			
1. 人体を構成する生体分子、酵素の働き、物質代謝およびエネルギー産生の概略を説明できる。 2. タンパク質と核酸(DNAとRNA)の構造と機能、分子生物学のセントラルドグマ(複製、転写、翻訳)について説明できる。 3. 細胞外から細胞内への情報伝達機構について説明できる。			
成績評価の方法			
6月16日(金)に実施予定の試験により成績評価します。不合格者については再試験を行いません。8回の授業のうち、6回以上出席しなければ試験を受験できません。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 教科書または配付資料に沿って講義を行います。			
【授業計画】 第1回 ヒトの生体分子(上田夏生) 第2回 酵素の働き(上田夏生) 第3回 タンパク質の構造と機能(神鳥成弘) 第4回 ヒトの物質代謝と生体エネルギー(上田夏生) 第5回 核酸の構造と機能・DNAの複製(神鳥成弘) 第6回 転写とRNAプロセッシング・翻訳と翻訳後修飾(神鳥成弘) 第7回 生理活性物質と受容体の構造と役割(野中康宏) 第8回 シグナル伝達(細胞外から細胞内への情報伝達機構とその具体例)(小川崇)			
【自学自習に関するアドバイス】 短期間で多くの内容を学習しますので、復習は必須です。			

教科書・参考書等

「基礎からしっかり学ぶ生化学」 羊土社、山口雄輝／編著、成田央／著、
定価2,900円＋税、2014/10/15発行、ISBN 978-4-7581-2050-0

オフィスアワー 金曜日2時限目を原則としますが、以下のe-メールアドレスへのアポイントメントにより、他の日時でも構いません。

上田 ueda.natsuo@kagawa-u.ac.jp
神鳥 kamitori.shigehiro@kagawa-u.ac.jp
野中 nonaka.yasuhiro@kagawa-u.ac.jp
小川 ogawa.takashi@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

初回から教科書を使用して授業を進めるので、事前に購入してください。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2PSY-bcxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780130) 知覚・認知心理学 Psychology of Perception & Cognition	科目区分	時間割 後期木2	対象年次及び学科 2～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子	関連授業科目 心理学概論		
	履修推奨科目 心理学概論		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
本授業では、知覚、記憶、感情、問題解決などのテーマをとりあげ、人間の知覚・認知機能についての基礎的知識の習得を目指します。また、それらの知覚・認知研究の成果が、教育や臨床、人間関係にどのように応用できるのか検討し、人間の心の働きとその仕組みについての理解の深化を促します。			
授業の目的			
ヒトの感覚・知覚、認知・思考の機序ならびにその障害を理解し、概説できることを目指します。また、知覚・認知研究の成果を日常生活でどのように役立てられるか考察します。			
到達目標			
1. ヒトの感覚・知覚等の機序について説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 2. ヒトの認知・思考等の機序について説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 3. 感覚や認知に関する機序を理解した上で、その障害について説明できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 4. 知覚・認知研究の成果から、日常生活への応用方法を提案できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
成績評価の方法			
小テスト40% (特に到達目標の1・2に対応)、発表40% (特に到達目標の3・4に対応)、授業態度20% (全ての到達目標に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1回の授業では、講義と小テストへの回答を求めます。また、授業内容を理解するため、適宜グループワークを取り入れて授業を進めます。			
第1回 オリエンテーション：知覚・認知心理学の歴史【講義と小テスト】 第2回 知覚【講義と小テスト】 第3回 高次の知覚【講義と小テスト】 第4回 注意【講義と小テスト】 第5回 表象【講義と小テスト】 第6回 記憶1：記憶の諸理論【講義と小テスト】 第7回 記憶2：忘却【講義と小テスト】 第8回 第1回～第7回のトピックスに関する心理学的応用方法【発表1】 第9回 言語理解【講義と小テスト】 第10回 問題解決と推論【講義と小テスト】 第11回 判断と意思決定【講義と小テスト】 第12回 認知と感情【講義と小テスト】 第13回 認知発達【講義と小テスト】 第14回 認知・思考の障害【講義と小テスト】 第15回 第9回～第14回のトピックスに関する心理学的応用方法【発表2】			
この科目は、基本的に対面授業を行います。 なお、状況によっては遠隔授業へ変更する可能性があります。			

<p>【自学自習について】 この授業では、知覚・認知心理学を使って日常の問題や障害を理解することを目的としています。そのため、授業の内容をもとに、自分や他者の知覚・認知について積極的に考えてみましょう。(30時間) 全2回のグループ発表では、グループで協力して活動してください。(30時間)</p>
<p>教科書・参考書等 適宜資料をMoodleを用いて配布します。 参考書：道又 爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢 学 (2003) . 認知心理学：知のアーキテクチャを探る 有斐閣 2,100円＋税 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原 滋 (2010) . 認知心理学 有斐閣 3,400円＋税</p>
<p>オフィスアワー 三木キャンパス・講義棟3階 木曜日昼休み</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業は毎回出欠をとります。なお、病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。</p>
<p>教員の実務経験との関連</p>

ナンバリングコード B2PSY-bcxM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 780150) 発達心理学 Life Span Developmental Psychology	科目区分	時間割 前期火1	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 林 智一	関連授業科目 青年心理学		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要			
<p>人間は一生を通じて成長・発達し続ける。誕生から死を迎えるまでの人生全体を視野に入れて、こころの変化の特徴やプロセスを明らかにするのが発達心理学の特徴である。</p> <p>この授業では、人間の生涯の発達について、乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期のこころの特徴を明らかにし、さらに発達のつまずきやそれに対する心理的援助についても考察する。なお、内容が抽象的になりすぎないように、映画などを具体的事例として利用する。</p>			
授業の目的			
<p>本授業では、青年期までのこころの発達だけでなく、成人発達にウエイトを置いて授業を行う。人間のこころの発達には、成長・獲得だけでなく衰退・喪失もまた含まれている。多くが青年期にある受講者には遠い未来のことにように思われるかもしれないが、自らも老いて病み、やがて死にゆく存在である。</p> <p>したがって、単なる援助対象としてではなく、それぞれの発達段階にある人々、発達上の障がいや有する人々の心情をわがこととして理解し、そこに寄り添う姿勢を獲得することを目的とする。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達の概念について説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 2. 各年代の心理的特徴について説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 3. 各年代の心理的特徴に関する個別性、障がいとその心理的援助について説明できる (DPの「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)。 4. 生涯を通じての発達という視点で人間を理解し、その心理について説明できる (DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート+受講態度 (授業内でのミニレポート提出を含むレポート課題、グループワークへの関与・発表など) 50% ・定期試験50% 			
成績評価の基準			
<p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <p>合格又は了 到達目標を達成している。</p> <p>不合格 到達目標を達成していない。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 こころの一生をどうとらえるか			
第2回 乳児期：胎児・新生児・乳児の能力、愛着と母子関係			
第3回 幼児期：母親からの分離-個体化、幼児の遊びの意味			
第4回 児童期：社会性の発達と友人関係、学校への適応			
第5回 思春期：親子関係・友人関係、心理的失調			
第6回 青年期：アイデンティティ、社会に出るための模索			
第7回 成人初期：仕事、配偶者選択、親になることと「親になれない」親			
第8回 中年期：親子関係、配偶者関係、老親の介護と看取り、女性の中年期			
第9回 高齢期①：死、認知症			
第10回 高齢期②：施設入所、心理的援助としてのライフレビュー			
第11回 映画にみる子どもの対象喪失と喪の仕事①			
第12回 映画にみる子どもの対象喪失と喪の仕事②			
第13回 映画にみるこころのライフサイクル①			
第14回 映画にみるこころのライフサイクル②			
第15回 レポートのピアレビュー			

【授業及び学習の方法】

テキストをもとにして、授業およびシンク・ペア・アンド・シェアでの演習等を行います。また、映画を教材として利用し、教員によるミニレクチャー後、映画に関するレポートを執筆します。アクティブラーニングを活用します。

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべてあるいは一部を遠隔へ変更する可能性があります。遠隔の場合、映画は利用できないことを申し添えておきます。

【自学自習のためのアドバイス】

第1回～第10回：各回のテーマの教科書該当箇所を熟読し、不明の用語については心理学事典、引用・参考文献などで調べ、予習してください（準備学習2時間×10回＝20時間）。

もちろん復習も重要です。ノートは授業後に作成すること。授業中にノートを完成する余裕はないはずです。授業中は良く聴き、理解することに専念してください（事後学習2時間×10回＝20時間）。

第11回～第15回：事例として映画を視聴するので、登場人物への共感性や物語を読み解く力なども求められます。日頃から小説や映画などさまざまな芸術に触れて、自らのこころが動かされる体験を積んでください。さらにその際、自分のこころをモニターするトレーニングも行ってください。これは本科目に限らず、心理援助者にとって不可欠なトレーニングのひとつです（準備学習2時間×5回＝10時間、事後学習2時間×5回＝10時間）。

一般的に：レポート課題（ミニレポートを含む）が多いので、授業外に資料を調べ、自分なりに考えて執筆するという主体的・能動的な学修が求められます。レポート執筆の際に不可欠なので、『レポートの組み立て方』を必ず熟読しておくこと。レポート執筆の技能は、本科目に限らず、卒業後も含めて今後も常に求められます。

授業内で紹介する推薦図書などは、積極的に関心を持って読み進めること。試験やレポートに直接、関連しなくても、それが視野を広げ、授業テーマを相対化・客体化して理解すること、すなわち理解の深化につながります。

教科書・参考書等**教科書**

・岡本 祐子・深瀬 裕子（編著） 2013 エピソードでつかむ生涯発達心理学 ミネルヴァ書房（2600円＋税）

・木下是雄 1994 レポートの組み立て方 筑摩書房（ちくま文庫）（757円＋税）

参考書等

・国語辞典（電子辞書でも可。レポートの相互評価時に必要です）

・心理学事典（平凡社、誠信書房、有斐閣など）

オフィスアワー 水曜日16：20-17：00。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業回数の3分の2以上の出席がないと、単位は与えられません（試験、レポート評価を受けられません）。

教員の実務経験との関連

担当教員は公認心理師、臨床心理士の資格を有しています。病院・老人保健施設の心理療法士や、小学校・中学校・高校・高専（年代的には高校～短大に相当）のスクールカウンセラーの実務経験を有する担当教員が、ライフサイクル各期のクライアントとの心理療法経験を活かして、生涯にわたるこころの発達に関する授業を行います。

ナンバリングコード B2PSY-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 780180) 教育・学校心理学 Educational and School Psychology	科目区分	時間割 後期火1	対象年次及び学科 2～医(看・臨) 臨床心理学
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 山田 俊介, 中村 多見	関連授業科目 心理学概論		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
この授業では、教育心理学と学校心理学の知見を学び、教育現場における問題や心理社会的課題の支援や援助に向けた心理援助職を担う者としての基礎を培います。教育現場の多様なニーズを把握・分析し、多職種連携・地域連携を通じた心の健康の保持増進について考えます。			
授業の目的			
教育現場において生じる問題及びその背景について理解する。そして、その心理社会的課題及び必要な支援について理解し、心理援助職を担う者としての態度や倫理について認識する。			
到達目標			
1) 教育現場において生じる問題を列挙し、その背景について説明することができる (DP「b 知識・理解 (21世紀型市民及び学士(臨床心理学)として)」に対応)。 2) 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について具体的に述べるすることができる (DP「c 問題解決・課題探求能力」に対応)。 3) 心理援助職を担う者としての態度や倫理について説明することができる (DP「d 倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法			
期末テスト70% (特に到達目標1に対応)、コメントカード10% (特に到達目標2に対応)、ミニレポート20% (特に到達目標3に対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション：教育現場で公認心理師に期待されること 第2回 教育・学校心理学を支える理論①－学校組織と教育制度 第3回 教育・学校心理学を支える理論②－学校心理学と生徒指導 第4回 教育・学校心理学を支える理論③－心理学的基盤 (発達) 第5回 教育・学校心理学を支える理論④－心理学的基盤 (教育) 第6回 教育・学校心理学を支える理論⑤－心理学的基盤 (臨床と社会) 第7回 教育・学校心理学を支える心理学的援助の方法と技法①－心理学的アセスメント 第8回 教育・学校心理学を支える心理学的援助の方法と技法②－カウンセリングマインド 第9回 教育・学校心理学を支える心理学的援助の方法と技法③－スクールカウンセリング 第10回 教育・学校心理学を支える心理学的援助の方法と技法④－コンサルテーション 第11回 教育・学校心理学を支える心理学的援助の方法と技法⑤－コーディネーション 第12回 子どもをめぐる課題への支援 第13回 家族・地域をめぐる課題への支援 第14回 教師をめぐる課題への支援 第15回 学校をめぐる課題への支援			
【授業及び学習の方法】			
授業は講義中心に進めますが、適宜グループワークを取り入れて講義内容の理解を深めるとともに、心理援助職を担う者としての人間性の涵養を図ります。毎回の出席は、授業終了時のコメントカードの提出をもって認めます。コメントカードは授業開始時のみに配布しますので、遅刻しないよう十分に注意してください。最後に、授業時間外の学習として数回のレポートを課します。教科書や関連本等を読んで、テーマに沿った内容を分かりやすく			

まとめましょう。

この科目は基本的に対面授業を行います。ただし、状況によっては授業形態を全て遠隔授業に変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2回～第6回 関連書籍や資料を確認し（6時間）、予習復習の内容を学習シートにまとめる（12時間）

第7回～第11回 心理学的援助の実践を振り返り（8時間）、レポートにまとめる（12時間）

第12回～第15回 各回の課題を話題提供できるように準備し（8時間）、グループワーク後に発表できるように整理する（14時間）

教科書・参考書等

教科書：使用しません。

参考書：授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 基本的には授業開始前の火曜日8:30～8:50の間に対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

特にありません。

教員の実務経験との関連

教育機関にて学生相談員を兼担。学生相談に従事した実務経験をもとに、教育・学校心理学について講義を行います。

ナンバリングコード B2PSY-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780200) 社会・集団・家族心理学 Social, Group and Family Psychology	科目区分	時間割 前期月2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 野口 修司	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (事前学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要			
人間は望むか望まないかにかかわらず、他者や集団との関係を避けて生きていくことは困難である。同様に、人間の心理においても個人と他者、個人と集団との相互作用において影響を与えたり、与えられたりすることは避けられない。その際、様々な関係性(家族、友人、職場関係等)の考察において重要となってくるのが「システム」と「コミュニケーション」という視点である。本授業では、この2つの視点を中心としながら、社会・集団・家族における心理的関連について取り扱っていく。			
授業の目的			
本授業の目的は、「システム」と「コミュニケーション」という2つの視点に基づきながら、対人関係および集団における人間の心理や行動の過程と、個人と他者および集団が相互に与える影響について理解することである。また、臨床心理学において「システム」と「コミュニケーション」を活用した心理療法である家族療法およびブリーフセラピーに焦点を当て、社会・集団・家族における心理援助の具体的な理論および技法について、事例等を踏まえながら紹介する。			
到達目標			
1) 対人関係並びに集団における人の意識及び行動に関する心の過程について、説明することが出来る (DP「知識・理解」に対応)。 2) 人の態度及び行動について、説明することが出来る (DP「知識・理解」に対応)。 3) 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、説明することができる (DP「知識・理解」に対応)。 4) 社会・集団・家族における心理援助の具体的な理論および技法について、説明することができる ((DP「問題解決・課題探求能力」に対応))。			
成績評価の方法			
授業態度 (20%) + 中間テスト (40%) + 期末テスト (40%)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション: 「システム」と「コミュニケーション」			
第2回 家族療法およびブリーフセラピーの基礎理論			
第3回 MR Iアプローチの理論と技法(1): 悪循環の見立てと介入			
第4回 MR Iアプローチの理論と技法(2): 事例から理解する			
第5回 BFTCアプローチの理論と技法(1): 例外の発見と拡張			
第6回 BFTCアプローチの理論と技法(2): 事例から理解する			
第7回 構造的家族療法アプローチの理論と技法			
第8回 中間テスト			
第9回 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程(1): 社会的集団行動			
第10回 対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程(2): ストレスとソーシャルサポート			
第11回 人の態度及び行動(1) 印象形成と意思決定			
第12回 人の態度及び行動(2) 動機付け			
第13回 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響(1) 家族の社会的変遷			
第14回 家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響(2) 家族ライフサイクル			

第15回 これまでの振り返り

【授業及び学習の方法】

興味を持った内容については、積極的に本やインターネットなどで調べましょう。授業の内容を知識としてだけ受け取るのではなく、自分の日常生活にどのように関わりがあるのかを考えることによって、興味や理解はさらに深まります。

なお、本授業は基本的に対面授業を行いますが、状況によっては遠隔授業へ変更します。

【自学自習のためのアドバイス】

授業の前には予習（各回2時間程度の事前学習）をし、それを踏まえて授業の内容を確認してください。また、授業の後には復習（各回2時間程度の事後学習）をすることで、内容をしっかりと理解することを心がけましょう。

教科書・参考書等

適宜、資料を配布する。

オフィスアワー 月曜 12:00～13:00（事前にアポイントメントを取ることに）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

成績は出席・授業態度、中間テスト、期末テストの3点から評価しますので、しっかりと授業に出席して講義を聴いてもらうことが重要となるでしょう。

教員の実務経験との関連

これまで臨床心理士として、不登校・引きこもり等への家族支援、スクールカウンセリング、行政職員へのメンタルヘルス支援、大規模災害における被災者支援等に従事。これらの実務経験に基づきつつ、社会・集団・家族心理学に関する講義を行います。

ナンバリングコード B2PSY-cbdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780250) 心理的アセスメント Basic principle of Psychological Assessment	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 2～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cbd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 橋本 忠行	関連授業科目 心理演習Ⅲ (心理的アセスメント演習)		
	履修推奨科目 感情・人格心理学		
学習時間 講義・演習90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
公認心理師法第2条では、公認心理師の業のひとつとして「心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること」が定められている。臨床心理学では「心理アセスメント」がそれに該当し、方法として「面接法」「観察法」「検査法」という分類がなされている。この科目では、まず心理アセスメントの目的、定義、倫理、歴史などの概要について講義を行う。その後検査法を中心としながらもそれ以外の方法も含め、それぞれの特徴と標準化された手続きについて実習を進める。重要なテーマについては、小グループでのディスカッションを行う。			
授業の目的			
医療、教育、福祉、司法、そして産業など、幅広い分野での対人支援を志す医学部臨床心理学科の学生には、対象者と接する際に主観的なこころの理解と客観的なこころの理解のバランスをとることが求められる。心理検査をはじめとした心理アセスメントは後者の方法であり、先入観やバイアスにとらわれず、分け隔てのない公平な視点を身につけることも目的となる。そしてその臨床的な実施のためには、様々な技術が必要となる。対象者の長所と短所、偏り、バランスといった点に注目し、その人らしさを描き出すための技法を身につけていく。またチーム医療			
到達目標			
1.心理的アセスメントの目的及び倫理を説明できる (DP「知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2.心理的アセスメントの観点及び展開を説明できる (DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)を理解し、倫理的な配慮のもとに標準化された方法で自ら実施できる (DP「倫理観・社会的責任」に対応) 4.心理的アセスメントの結果と過程について、適切な記録及び報告ができる (DP「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法			
期末テスト60% (到達目標1・2・3)、小レポート40% (到達目標3)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション			
第2回 心理的アセスメントの目的と定義: アセスメントと診断			
第3回 心理的アセスメントの倫理: 公認心理師法、日本臨床心理士会、APAを中心に			
第4回 心理的アセスメントの歴史: 個人差への注目と検査法の発展			
第5回 心理的アセスメントの事例研究			
第6回 医療保健分野における実践			
第7回 教育分野・司法分野における実践			
第8回 実践のための諸知識: テスト・バッテリー、生物-心理-社会モデルとICFモデル、DSM-5の活用、心理検査と診療報酬			
第9回 質問紙法によるパーソナリティの理解: MMPI			
第10回 児童を対象にした知能検査: WISC-IV①実施法			

- 第11回 児童を対象にした知能検査：WISC-IV②結果の分析と解釈
 第12回 心理・教育アセスメント：K-ABC II ①実施法
 第13回 心理・教育アセスメント：K-ABC II ②結果の分析と解釈
 第14回 作業検査法：内田クレペリン作業検査
 第15回 インテーク面接でのアセスメント：語られた・観察された情報の統合と報告

【授業および学習の方法】

第1回～第4回、第6回?第8回：テキスト、配付資料、パワーポイント等を用いて各テーマについての講義を行う。
 第9回～第14回：各心理検査の演習を行う。①各技法の標準的な実施法、②結果の整理、③解釈と報告（レポートの作成）、④臨床的活用の流れで学習を進め、その一連の過程を修得する。各検査等の適切な記録及び報告を含む
 第5回、第15回：担当教員が提示する資料をもとに、講義と小グループでの検討を行う。
 *適宜小グループでのディスカッションを行う。
 *この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1回～第4回、第6回～第8回では、テキストの予習と授業後の復習を行う（4時間×7回=28時間）。第9回?第14回では、それぞれ授業内で演習した心理検査について、結果の整理、解釈、自己分析等を行う（4時間×6回=24時間）。第5回、第15回では事例についての振り返りを行う（4時間×2回=8時間）。

教科書・参考書等

教科書：「アセスメントの心理学」（橋本忠行・佐々木玲仁・島田修、2015）（培風館）2,500円税別

オフィスアワー 時間：火曜日12:00-13:00
 場所：講義棟3階橋本研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

2年次前期科目「感情・人格心理学」、3年次前期科目「心理演習Ⅲ（心理的アセスメント演習）」との連続性を意識する。心理検査（第9回-13回）の実習・演習を中心に、学生支援センター・バリアフリー支援室の塩入美希先生が授業補助に入るので、その際には指示に従うこと。

教員の実務経験との関連

医療保健分野（精神科病院、大学病院の精神科等）、司法分野（警察少年サポートセンター）、心理教育分野（心理臨床相談室、心理臨床センター、大学の学生相談室等）で心理アセスメントを実践してきました。

ナンバリングコード B2PSY-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780270) 感情・人格心理学 Psychology of Emotion and Personality	科目区分	時間割 前期火3	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 橋本 忠行	関連授業科目 心理的アセスメント		
	履修推奨科目 心理演習Ⅲ (心理的アセスメント演習)		
学習時間 講義・実習90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
感情と人格 (パーソナリティ) は人間の生活と切り離すことができず、人間の行動にさまざまな影響を与えている。本科目では感情心理学と人格心理学について、臨床心理学との接点を考えながら講義を行う。また感情やパーソナリティのアセスメントについて演習を行い、臨床実践のための基礎的な技術を習得させる。			
授業の目的			
本科目は公認心理師カリキュラム (学部) において、基礎心理学のひとつとして「必要な科目」に位置づけられています。「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」と並び、人間のこころの基本的な働きを学ぶ科目です。感情と人格に関する理論を理解し、それらに関連した障害や疾患のアセスメントと対応を考えることができる (DP「問題解決・課題探求能力」に対応) ようになることを目的とします。			
到達目標			
1. 感情に関する理論および感情喚起の機序を説明できる (DP「知識・理解」に対応) 2. 感情が行動に及ぼす影響について説明できる (DP「知識・理解」に対応) 3. 人格の概念及び形成過程を説明できる (DP「知識・理解」に対応) 4. 人格の類型、特性等について説明できる (DP「知識・理解」に対応) 5. 臨床実践の基礎となる感情・人格のアセスメントを実施できる (DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. 感情・人格のアセスメントを実施する際の倫理的配慮について説明できる (DP「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法			
期末テスト70% (到達目標1・2・3・4・5)、小レポート30% (到達目標5・6)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション			
第2回 人格の概念及び形成過程			
第3回 人格の類型と特性			
第4回 健康なパーソナリティと愛着			
第5回 パーソナリティのアセスメント (YG性格検査 / CMI)			
第6回 5因子モデルによるパーソナリティのアセスメント (NEO-PI-R人格検査)			
第7回 パーソナリティ障害の理解と支援			
第8回 パーソナリティ障害の事例研究			
第9回 投映法によるパーソナリティのアセスメント (TAT / TCTS)			
第10回 感情に関する理論および感情喚起の機序①: 感情の定義と分類 / 感情に関わる神経機構			
第11回 感情に関する理論および感情喚起の機序②: 基本感情論 / 認知と感情			
第12回 感情のアセスメント① (POMS2 / BDI-II)			
第13回 感情の障害 (抑うつ / 不安)			
第14回 感情のアセスメント② (STAI) と事例研究			
第15回 感情が行動に及ぼす影響			
【授業および学習の方法】			
第1回?第4回、第7回、第10回?第11回、第13回、第15回: テキスト、配付資料、パワーポイント等を用いて各テーマ			

についての講義を行う。

第5回?第6回、第9回：パーソナリティのアセスメントについて、講義と演習を行う。

第12回、第14回：感情のアセスメントについて、講義と演習を行う。

第8回：事例研究では、担当教員が提示する事例をもとに小グループでの検討を行う。

*適宜小グループでのディスカッションを行う。

*この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1回?第4回、第7回、第10回?第11回、第13回、第15回では、テキストの予習と授業後の復習を行う（4時間×9回=36時間）。第5回?第6回、第9回、第12回、第14回では、それぞれ授業内で演習した心理検査等について、結果の整理、解釈、自己分析を行う（4時間×5回=20時間）。第8回では事例についての振り返りを行う（4時間）。

教科書・参考書等

「感情・人格心理学」 杉浦義典（編） 遠見書房 2019 2,600円（予価） ISBN978-4-86616-059-7
その他、資料等を適宜配布する。

オフィスアワー 時間：火曜日12:00-13:00

場所：講義棟3階橋本研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

2年次前期科目「感情・人格心理学」、3年次前期科目「心理演習Ⅲ（心理的アセスメント演習）」との連続性を意識する

教員の実務経験との関連

医療保健領域（精神科病院、大学病院の精神科等）、司法領域（警察少年サポートセンター）、心理教育領域（心理臨床相談室、心理臨床センター、大学の学生相談室等）で感情・人格の心理アセスメントを実践してきました。

ナンバリングコード B2PSY-badM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780290) 心理学的支援法 (カウンセリング概論) Counseling and Psychological Treatment	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bad・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山田 俊介	関連授業科目 臨床心理学概論、心理演習Ⅰ (コミュニケーション演習)、心理演習Ⅱ (心理面接演習) 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 心理学的支援とは何か、カウンセリングの代表的な理論・方法 (クライアント中心療法、精神分析的心理療法、認知行動療法) の基礎、様々な心理学的支援法について講義する。			
授業の目的 心理学的支援とは何か、またカウンセリングの基本的な考え方・方法について理解する。			
到達目標			
1. カウンセリングの基礎的な理論や概念について説明することができる。(DP「知識・理解」に対応) 2. カウンセラーの態度や関わり方について具体的に説明することができる。(DP「言語運用能力」、「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 心理学的支援とは何かについて説明することができる。(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 毎回の授業のミニ・レポート (25%)、レポート (15%)、期末試験 (60%) により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) 心理学的支援のあり方 (関係者に対する支援、プライバシーへの配慮を含む) (2) クライアント中心療法: 指示的アプローチと非指示的アプローチ (3) クライアント中心療法: 人間観 (4) クライアント中心療法: カウンセリングの古い方法と新しい方法 (5) クライアント中心療法: カウンセリング関係の基本的特質 (6) クライアント中心療法: パーソナリティ変化の必要十分条件 (7) クライアント中心療法: エンカウンター・グループとパーソン・センタード・アプローチ (8) クライアント中心療法の実例 (9) 精神分析的心理療法: 精神分析とは何か。局所論 (10) 精神分析的心理療法: 心理学的発達論 (11) 精神分析的心理療法: 構造論、防衛機制 (12) 精神分析的心理療法: 心理療法としての精神分析。面接契約。面接構造。 (13) 精神分析的心理療法: 心理療法としての精神分析。面接過程。 (14) 認知行動療法 (15) 様々な心理学的支援法 (訪問による支援、地域支援など)			
【授業及び学習の方法】 この科目は全回対面授業で行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 *各回の授業でテーマとなる内容について、毎授業前、教科書や配布した資料などを読み、関心や問題意識をもって、授業に臨む。			

*各回の授業で取り上げた内容について、毎授業後、教科書や配布した資料などを参考に復習を行い、内容を整理し、理解を確かなものとする。第8回終了後、これに関連したレポートを作成する。
*授業時に紹介する参考文献などを手がかりに、心理学的支援やカウンセリングに関する自分の関心や疑問を探求する。

教科書・参考書等

『やさしく学べる心理療法の基礎』 窪内節子・吉武光世 培風館 2003年 (2,750円)
(医学部書店にて販売します)

オフィスアワー 火曜日12:00~12:50

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

カウンセリングにおいては「聴く」ことが重要となるので、この授業においても真剣に聴く姿勢を大切にしてください。

教員の実務経験との関連

公認心理師、臨床心理士の資格を持ち、心理援助に携わってきた経験をもとに、心理学的支援について講義を行います。

ナンバリングコード B2PSY-dbeM-20-Lf 授業科目名 (時間割コード: 780310) 公認心理師の職責 (心理師実践職能論) Professionalism of Licensed Psychologists	科目区分	時間割 後期木4	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 dbe・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 竹森 元彦, 山田 俊介, 橋本 忠行, 林 智一, 野口 修司	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×10回 実習90分×5回 + 自主学习 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 各分野における心理職の業務と役割、関係法規、守秘義務等を講義形式で行う。その後、医療、福祉、矯正・司法分野の4施設・機関において見学実習を、事前学習、見学、事後学習の順で行う。事前学習では、施設・機関の特性や関係法規と共に心理職の役割や多職種連携についてグループ発表する。現場での見学は、職員から施設・機関の現状、心理職の役割や機能、チーム支援(多職種連携)、関係法規、倫理などの説明を受ける。その後、学内でグループでの事後学習を行って内省・深化・定着をうながす。心理援助職としての学習課題の発見や自己理解を深める。			
授業の目的 公認心理師の職責の授業は、多職種との連携やチーム支援をめざす心理援助者養成のカリキュラムにおいて重要な位置にある。講義と実際の現場の見学を通して、各分野の心理職の業務や役割、チーム支援、守秘義務などの専門的な倫理観を学習する。また、グループでの話し合いを通して、その経験の内省・進化・定着をすすめる、自己理解や社会的責任感も促す。その結果、医療・保健、福祉、産業などの心理援助者を目指す上での基礎的な知見や知識を見学と議論を通して身につけることができる。			
到達目標			
1. 講義や事前学習を通して、保健・医療、福祉、司法・矯正、産業分野における公認心理師の義務と役割、チーム支援、守秘義務のあり方等についての知識を身につける。(DPの「知識・理解」/「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 保健・医療、福祉、司法・矯正、産業分野の現場の見学と事後学習を通して、それぞれの分野における公認心理師の義務や役割、チーム支援の実際についてより具体的に説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」/「地域理解」に対応) 3. 心理援助者としての学習課題の発見や自己理解を深めることができる。			
成績評価の方法 各実習施設見学のレポート(50%)。最終レポート(50%)。それらの総合として成績を評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 (オムニバス方式/全15回)			
第1回 オリエンテーション、各分野における心理職の業務と役割、関係法規、守秘義務などの講義 第2回 司法・矯正分野(少年鑑別所、家庭裁判所) 事前学習 第3回 司法・矯正分野(少年鑑別所、家庭裁判所) 施設見学 第4回 司法・矯正分野(少年鑑別所、家庭裁判所) 施設見学 第5回 司法・矯正分野(少年鑑別所、家庭裁判所) 事後学習 第6回 医療・保健分野(精神科病院) 事前学習 第7回 医療・保健分野(精神科病院) 施設見学 第8回 医療・保健分野(精神科病院) 事後学習 第9回 福祉分野(児童相談所) 事前学習 第10回 福祉分野(児童相談所) 施設見学			

- 第11回 福祉分野(児童相談所) 事後学習
 第12回 産業分野(企業) 事前学習
 第13回 産業分野(企業) 施設見学
 第14回 産業分野(企業) 事後学習
 第15回 全体の振り返り、自己課題と課題解決能力の促進、心理職としての生涯学習への準備

【授業及び学習の方法】

*この科目は基本的に対面授業を行います。各分野で施設見学を実施します。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1回 講義やグループ討議を通して、見学実習に行くための自分の問題意識(何をしたいのか)について明確にする。(2時間)
 第2～5回 事前に、司法・矯正分野の心理臨床について調べて、まとめる。また、見学する上での問題意識をまとめる。事後は、施設見学を通して、施設の機能、心理職の役割等についてまとめる。(6時間)
 第6回～8回 事前に、医療・保健分野の心理臨床について調べて、まとめる。また、見学する上での問題意識をまとめる。事後は、施設見学を通して、施設の機能、心理職の役割などについてまとめる。(6時間)
 第9回～11回 事前に、福祉分野の心理臨床について調べて、まとめる。また、見学する上での問題意識をまとめる。事後は、施設見学を通して、施設の機能、心理職の役割などについてまとめる。(6時間)
 第12回～14回 事前に産業分野の心理臨床について調べて、まとめる。また、見学する上での問題意識をまとめる。事後は、施設見学を通して、施設の機能、心理職の役割などについてまとめる。(6時間)
 第15回 全体を振り返り、考察をする。(2時間)

教科書・参考書等

教科書：公認心理師の職責(公認心理師の基礎と実践)(遠見書房) 2160円

参考書：公認心理師(学研)4500円、

オフィスアワー 事前学習と事後学習の後の時間で、各施設担当教員の研究室にて。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

現場での見学実習であるので身を引き締めて、授業に参加することを心掛けてほしい。見学実習中に、困ったことやわからない点があれば、施設担当教員へと相談をすること。見学実習先への遅刻などをしないこと。

教員の実務経験との関連

精神科神経科クリニックや福祉施設、産業分野での心理臨床経験を有する。

ナンバリングコード B2PSY-cabM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 780320) 心理演習 I (コミュニケーション演習) Seminar in Psychology I (Counseling Communication)	科目区分	時間割 後期火2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 cab・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 山田 俊介, 竹森 元彦	関連授業科目 心理学的支援法(カウンセリング概論)、心理演習 II (心理面接演習、を履修するためにはは心理演習 I を履修し単位を修得しておく必要があります) 履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 カウンセリング・コミュニケーションの基礎として、カウンセラーの基本的な応答・態度について、具体的な課題に段階的に取り組む演習を通して学習する。			
授業の目的 カウンセリングにおける1つ1つの具体的な応答の重要性・専門性を理解する。 カウンセリングの応答・態度で重要となる点や留意すべき点に気づく。また、専門的な訓練が必要であることを認識する。			
到達目標			
1. カウンセリングの応答・態度について重要な点や留意すべき点を説明することができる。(DP「知識・理解」に対応) 2. クライエントの発言に対して、共感的理解を心がけて、応答することができる。(DP「言語運用能力」に対応) 3. カウンセラーとしての自分の応答・態度について、その特徴や課題を述べるすることができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法 毎回の演習への取り組み及びミニ・レポート(20%)、クライアント発言に対する具体的な応答に関する試験(40%)、レポート(40%)により評価する。なお、欠席が4回で不可とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1) オリエンテーション (2) カウンセラーの基本的態度 (3) クライエントの発言への応答: 紙上練習法① (4) クライエントの発言への応答: 紙上練習法② (5) クライエントの発言への応答: 紙上練習法③ (6) クライエントの発言への応答: 紙上練習法④ (7) クライエントの発言への応答: 紙上練習法⑤ (8) クライエントの発言への応答: 聴取練習法① (9) クライエントの発言への応答: 聴取練習法② (10) クライエントの発言への応答: 聴取練習法③ (11) カウンセラーからの質問① (12) カウンセラーからの質問② (13) クライエントからの質問への応答① (14) クライエントからの質問への応答② (15) 逐語記録の検討			

<p>【授業及び学習の方法】 個人ごとに課題を行った後に、グループでの話し合い、全体での発表・検討を行うという形で演習を進めていく。この科目は全回対面授業で行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 *カウンセリングの応答に関する演習課題を十分な時間をかけて、授業までに確実にしておく。 *各回の授業で行った演習内容について、授業後に振り返りを行い、カウンセリングのやりとりにおいて重要となる点や留意すべき点を整理する。</p>
<p>教科書・参考書等 特に指定しない。プリントを配布する。</p>
<p>オフィスアワー 火曜日12:00~12:50</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ 段階的に演習を進めていくので極力欠席をしないこと。課題を確実に行った上で授業に臨むこと。また、内面の動きを丁寧に汲み取っていくことが特に重要であるので、真剣な態度で学習に取り組むこと。話し合いにも真剣で積極的に参加することが望まれる。</p>
<p>教員の実務経験との関連 公認心理師、臨床心理士の資格を持ち、カウンセリングなどに携わってきた経験をもとに、カウンセリングの応答・姿勢について演習を行います。</p>

ナンバリングコード B2PSY-dbeM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780350) 関係行政論 (社会医学・関係行政論) Social Medicine and Public Administration	科目区分	時間割 前期月3~4	対象年次及び学科 2~ 医(看・臨) 臨床心 理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 dbe・M	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 平尾 智広, 神田 かなえ, NLANDU NGATU	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 心理援助を志す者にとって、将来活動が期待される分野の社会的しくみを理解することは必須のものです。また、広い視点から人々の健康を支える社会医学について理解を深めることは大変重要です。本講では、幅広い領域の法制度、しくみ、その基本的考え方について概説し、理解を深めます。授業は、講義とディスカッションを中心に行い、知識や理論の学習、ケースを用いた学習を組み合わせで行います。			
授業の目的 1) 心理援助者が活動する上で必要となる社会の各分野における法制度、施策について理解する。 2) 社会の各分野における法制度、施策の基盤となる考え方を理解し、実社会の課題について考察する。			
到達目標			
(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応) 1) 社会保障の概念とわが国の状況について述べるができる。 2) わが国の医療制度、医療関連法規について述べるができる。 3) 医療管理について述べるができる。 4) 健康政策について述べるができる。 (DP「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応) 5) 保健医療の倫理的課題について述べるができる。 6) 精神保健・福祉について述べるができる。 7) 母子保健・福祉について述べるができる。 8) 高齢者保健・福祉について述べるができる。 9) 障害者保健・精神について述べるができる。 10) 教育分野における保健・福祉について述べるができる。 11) 産業保健・労働衛生について述べるができる。 12) 司法・犯罪領域のしくみについて述べるができる。			
成績評価の方法 1. 授業参加の程度 2. 授業中の課題 3. 筆記試験 配分の目安: 1 (20%)、2 (20%)、2 (60%) なお、必要に応じて、再試験を行います。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。			
【授業計画】			

第1回 社会保障	第9回 高齢者の保健・福祉
第2回 医療制度	第10回 医療関連法規・倫理
第3回 医療管理	第11回 司法・犯罪領域のしくみ
第4回 健康政策	第12回 産業保健・労働衛生
第5回 精神保健・福祉	第13回 国際医療協力
第6回 障害者の保健・福祉	第14回 SDGs
第7回 教育分野における保健・福祉	第15回 総合討論
第8回 母子の保健・福祉	

【授業及び学習の方法】

授業で用いる資料はwebclass等にアップロードするので、各自で事前学習を行ってください。授業は対面で行いますが、状況によっては遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

毎回の講義内容の理解を前提に積み上げていきます。予習と復習を行い、疑問を残さないようにしてください。また授業のなかで課題を出す予定なのですべて行ってください。

教科書・参考書等

国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

公衆衛生がみえる（メディックメディア）

オフィスアワー 随時：公衆衛生学事務室、または教員に連絡をとってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実社会の動きと併せて学ぶと効果的なので、関連するニュースやトピックの積極的収集を行ってください。

教員の実務経験との関連

社会医学分野（健康管理、病院管理、地域保健、産業保健等）の実務経験を有する教員が授業を行います。

ナンバリングコード B2PSY-dbcM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 780360) 社会福祉論 Social Welfare	科目区分	時間割 前期木3	対象年次及び学科 2～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 dbc・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 岡崎 昌枝, 竹森 元彦	関連授業科目 心理実習 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自習学習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 社会保険・社会福祉に関する法制度などについての基礎的な知識を得ることを目的としている。そのうえで専門職・支援方法、などと連携協働を理解し、横断的に支援をする必要性や、複雑多様化した支援を行う場合の基本的な援助方法を学ぶことができるよう、具体的な事例や自分自身の生活と重ねて考える授業を実施する。これらの学習をとおして、生活者の生活問題に対応し、臨床心理及び看護の専門職者として、社会福祉・社会保障制度の現状をよりよい方向に発展させていくための姿勢を培う。			
授業の目的 社会保障・社会福祉に関する法制度、専門職、支援方法についての基礎的な知識を得るために、社会保障・社会福祉の理念、変遷を知り、現在の問題として認識できるようになる。福祉専門職と関連職種それぞれの業務から看護職及び心理職の役割を位置づけることができる。各福祉に関する法制度を学び、現在起きている問題と権利を学び現在起きている問題と権利を守るための施策を理解することができる。福祉的な支援が必要な方への支援方法を身につける。			
到達目標			
1. 社会保障の歴史的経過および基本的制度の枠組みを説明できる。(DPの「知識・理解」と対応) 2. 社会福祉の理念、社会福祉の歴史と人々の福祉ニーズの変化を説明できる。(DPの「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」と対応) 3. 社会保険の目的・施策、制度を説明できる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」と対応) 4. 社会福祉関連法の目的・施策、制度を説明できる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」と対応) 5. 権利擁護に関する背景と制度を理解できる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」と対応) 6. 社会福祉実践の基本となる援助技術について説明でき、社会資源を活用した支援を考えることができる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」と対応)			
成績評価の方法 ミニレポート(30%)、受講態度・出席時の取り組み状況(ふりかえりコメント)及びテスト(70%)を実施し総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
第1回 社会福祉の理念 第2回 社会福祉の変遷 第3回 社会保険(年金制度・医療保険制度)に関する知識 第4回 社会保険(雇用保険・労働災害保険他)に関する知識 第5回 社会福祉法(福祉計画・地域福祉) 第6回 ひとり親・児童に関する制度と支援			

- 第7回 障害者（児）に関する制度と支援
- 第8回 高齢者に関する制度と支援
- 第9回 医療保健に関する（制度と支援
- 第10回 生活困窮者に関する制度と支援
- 第11回 社会福祉専門職と社会資源
- 第12回 権利擁護（虐待・成年後見制度等）
- 第13回 相談援助の方法
- 第14回 地域支援を含む相談援助の方法
- 第15回 まとめ（連携と協働）

【自学自習に関するアドバイス】

療養者は、医療・福祉制度を利用して療養しています。療養者の生活支援のために、どのような制度が利用可能であるのかを考えることが求められます。社会福祉・社会保障制度に関心を持ち、制度を理解した上で、看護活動を行うことが療養者へのよりよい支援になります。そのため、授業後の自己課題には、積極的に自分の意見を述べるように資料や参考書を読んでおくこと。（各回4時間）

履修時点では必要のない知識のように感じるかもしれませんが、自分自身のためになり、かつ実際に提供されている看護を理解するために必要な知識です。実践的知識を深めていく姿勢が必要です。

教科書・参考書等

教科書：なし

参考書：椋野美智子他；はじめての社会保障、有斐閣アルマ（2022年発行1980円）

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 社会保障7」（2021年発行3190円）

福田素生 他；系統看護学講座専門基礎健康支援と社会保障制度【3】社会福祉、医学書院（2023年発行2640円）

オフィスアワー 講義開始前（木曜日12：30～13：00）。わからないことはWebクラス及び講義終了後に確認すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

レジメを配布する。

教員の実務経験との関連

社会福祉法人救護施設に勤務し、生活に困窮すかつ障害（身体・知的・精神）を有する利用者の支援を担当。その後、社会福祉士・介護福祉士の養成を短期大学で行った。その際には地域で暮らす高齢者の研究（主に坂出市）、障害者（障害）福祉計画策定委員長（宇多津町）、専門職後見人として権利擁護を行うなど、いままでの実務経験に基づいて、社会福祉全般、福祉的支援が必要な方への支援方法などについて実務的な講義を行います。

ナンバリングコード B2MED-dbcM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780410) 生命倫理学 Bioethics	科目区分	時間割 前期後半水1	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 dbc・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 角 徳文	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分(ディスカッションを含む)×8回 + 自学自習(事前学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
心理支援における倫理的な問題について具体的な例を挙げ問題点を提示します。講義と学生の議論や発表をもって授業とする予定です。			
授業の目的			
以下を目的とします。 1. 実際に遭遇する可能性のある倫理的諸問題を掲げることができる。 2. 倫理的な問題に関し、一般的な見解に加えて自分の意見を述べることができる。			
到達目標			
心理支援職が遭遇するであろう様々な場面での生命倫理的、及び医療倫理的な問題をどうとらえるか、皆さんと一緒に考えます。(DP「倫理観・社会的責任」、「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法			
レポート 100%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
(時間により変更・修正します)			
第1回 生命倫理学とは 第2回 道徳理論 第3回 多様な視点 第4回 安楽死・尊厳死 第5回 生殖医療 第6回 遺伝子と医療 第7回 臓器移植、再生医療 第8回 正義とは、公衆衛生倫理			
【授業及び学習の方法】 比較的「ぼんやりした」感のある生命倫理をどう考えていくか、皆さんと思考する場を提供します。			
【自学自習のためのアドバイス】 「自学自習(事前学習15時間+事後学習15時間)」 日々の生活や経験の中で見聞きする関連事情に関心や注意を向けてください。			
教科書・参考書等			
特に指定しません。授業計画にあるような事柄をメディアなどを通じて関心を持つような心がけてください。			
オフィスアワー 火曜日 13時～16時(ただしアポイントをお願いします)(基礎臨床研究棟)。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
自由な論議を行いたいと思います			

教員の実務経験との関連

長年、精神科医として臨床に携わってきた実務体験も交えながら講義を行います。

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780430) 病理学・免疫学概説 Introduction to Pathology and Immunology	科目区分	時間割 後期前半金3	対象年次及び学科 2～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bcx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 上野 正樹, 星野 克明, 水津 太, 千葉 陽一, 村上 龍太, 長尾 美奈	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習10時間+事後学習20時間)			
授業の概要			
疾患を抱えた人の心理状態のアセスメントには、その疾患の理解が重要となる。がん、免疫系疾患、炎症性疾患、循環障害、代謝異常、先天性異常など、様々な疾患の病因、および病態形成について理解するために、病理学・免疫学の基本的な知識が必要である。近年、これらの疾患について分子レベルでの機能解析が飛臨的に進んでいるため、本科目では、疾患の基本的な病因や病態だけではなく、その分子メカニズムについても学習する。講義内容は、がん、免疫、炎症、循環障害の総論をはじめ、臨床心理との関連性を鑑みた疾患を含む。			
授業の目的			
がん、免疫系疾患、炎症性疾患、循環障害、代謝異常、先天性異常などの疾患を抱える人に対して、臨床心理の現場における基礎的知識を習得する。			
到達目標			
がん、免疫系疾患、炎症性疾患、循環障害、代謝異常、先天性異常について、その発生機序、臨床像、治療法、疾患の問題点の概略を説明できる。(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法			
レポート8回分40%、期末テスト60%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
(オムニバス方式/全8回) この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
第1回～第3回: 水津太他/3回 がんとはどういうものか、その発生機序や病態、病理検査法、治療法など、がんを広く学習する。 第1回: 腫瘍の定義と分類 第2回: 腫瘍の発生病理 第3回: 悪性腫瘍の転移と進行度			
第4回、第5回: 星野克明他/2回 最近、飛臨的に解明されつつある免疫学の基礎知識を学習する。 第4回: 免疫の基礎 第5回: 免疫応答の人為的制御			
第6回～第8回: 村上龍太他/3回 様々な疾患の基礎となっている炎症や神経や循環障害の病理の基本的な病態を広く学習する。 第6回: 認知症の神経病理学 第7回: 炎症総論 第8回: 循環障害			
第9回: 筆記試験 (担当: 村上)			

[自学自習のためのアドバイス]

講義に臨む前に予習（各回1時間程度の準備学習）をして、きちんと講義についてくること。そして、その後、事後学習（各回の内容に関する事後学習は1時間程度で、テーマが終わるごとにそのテーマに関して2～3時間）を行い、腫瘍とは、炎症とは、免疫とは、などの全体像を把握することが大事です。

教科書・参考書等

必須の教科書等はありません。推薦書については講義中に提示します。

オフィスアワー 腫瘍病理学（水津）、炎症病理学（村上）、免疫学（星野）のいずれの研究室も基礎臨床研究棟6階西側にあります。具体的なオフィスアワーについては講義時に提示します。提示前に訪問を希望する場合は、メールで日時を調整の上、研究室に来てください（その時に対応困難な場合は、日時を調整します）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

確実な理解が必要な分野であり、疑問点があるときには積極的に質問してください。

全体の責任者は炎症病理学 村上です。履修についてなど、質問や連絡など必要な場合は村上まで。

教員の実務経験との関連

講義担当者はそれぞれ病理学・免疫学を専門とし、研究や医学生への教育を行っている教員です。それぞれの専門についてわかりやすく、簡潔に基礎を講義します。

ナンバリングコード B2MED-bcxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780440) 微生物学・医動物学概説 Introduction to Microbiology and Medical Zoology	科目区分	時間割 後期後半木1	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2MED	DP・提供部局 bcx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 桑原 知巳, 藤井 豊, 新井 明治, 今大路 治之, 多田 彩乃	関連授業科目	履修推奨科目	
学習時間 講義90分 x 8回 + 自主学习 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 感染症は医療現場で遭遇する頻度が高い疾患です。医療の発展や社会のグローバル化により、その様相は常に変化しています。本授業では代表的な病原微生物に関する基本事項について講義を行うとともに、現在の感染症を取り巻く諸問題について最新の話題を紹介します。			
授業の目的 医療従事者として知っておかなければならない微生物学の基本的知識や感染症を防ぐための具体的な方法を実践できるようになるのが本授業の目的です。			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス、細菌、寄生虫の違いを説明できる。 ・ 代表的な感染症について、その原因となる病原体、感染経路、症状を説明できる。 ・ 感染症の治療薬を説明できる。 ・ 現在問題となっている感染症を列挙できる。 ・ 感染症を予防する方法を説明できる。 『(DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」)に対応』			
成績評価の方法 受講態度 (10%)、小テスト (10%) および定期試験の成績 (80%) により総合的に判断します。小テストは講義毎に実施します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 微生物の基本性状 (桑原) 第2回 ヒト常在菌の生理機能 (今大路) 第3回 ウイルス学総論 (藤井) 第4回 ウイルス学各論 (藤井) 第5回 口腔衛生と感染予防 (多田) 第6回 寄生虫疾患 (新井) 第7回 衛生動物 (新井) 第8回 感染経路と感染対策 (桑原)			
【自主学习のためのアドバイス】 講義の内容を十分理解するために、その日の内に講義内容の復習を行ってください (自主学习1時間程度)。また、次の講義内容についての基本的な知識をあらかじめ自主学习により習得しておいてください (予習のための自主学习1時間程度)。			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する可能性があります。			
教科書・参考書等 <ul style="list-style-type: none"> ・ シンプル微生物学 (改訂第6版) 小熊 恵二, 堀田 博, 若宮 伸隆 編. 南江堂, 2018. (本体3,200円+税) ・ 医動物学 (第8版) 吉田幸雄, 有菌直樹, 山田稔 著. 南山堂, 2023. (本体6,000円+税) 			

・はじめの一步のイラスト感染症・微生物学 本田武司 編. 羊土社, 2011. (本体3,200円+税)

オフィスアワー 月曜日: 16:00-17:00, 医学部基礎臨床研究棟7階。分子微生物学研究室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各講義では必要に応じて講義資料を配布しますが、講義に出席して聴講しなければその内容を理解することはできません。各講義の前にはあらかじめ講義内容についての予習を行い、聴講後は速やかに参考図書や資料を活用して知識を整理し、十分な自主学習を行うことが重要です。下記のメールアドレスでアポイントを取って下さい。メールでの質問は受け付けません。

kuwahara.tomomi@kagawa-u.ac.jp

fujii.yutaka@kagawa-u.ac.jp (藤井教員)

arai.meiji@kagawa-u

教員の実務経験との関連

本講義は微生物学の教育研究に豊富な経験を有する教員が、微生物学および医動物学の基本事項から最新の知見まで理解しやすいように解説します。

ナンバリングコード B2PSY-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 780020) 心理学研究法 Psychological Research Methods	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B2PSY	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 野口 修司, 川人 潤子	関連授業科目 心理学統計法, 心理学実験Ⅱ, 心理学研究法, 臨床心理学基礎研究Ⅰ, 臨床心理学基礎研究Ⅱ, 臨床心理学研究Ⅰ, 臨床心理学研究Ⅱ, 卒業研究		
	履修推奨科目 統計学, 心理学統計法, 心理学実験Ⅰ, 心理学実験Ⅱ		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、心の現象や仕組みを科学的に探求するための様々な研究方法について概説します。特に、実験法、調査法、質的研究法、量的研究法などの実証的な研究法の特徴や手続き、用いられる分析方法、限界点、研究上の倫理的配慮などを体系的に教えます。			
授業の目的 この授業では、心理学研究法の概要について学ぶとともに、実験法、調査法、実践法など様々な研究に必要とされる基礎的な知識と技能を説明できる力を養うことを目的とします。また、研究計画を立て、遂行していくための基礎的な知識・技能の知識の習得を目指します。			
到達目標			
1. 心理学研究法の目的・意義を説明することができる (DPの「知識・理解」に対応)。 2. 各心理学研究法で必要とされる基礎的な知識と技法を説明することができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 3. 研究を実施する上で重要とされる倫理上の配慮や責任について、説明することができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法 小テスト80%, 学習態度20%			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 オリエンテーション：心理学研究法とは 第2回 実験法の基礎と実際 第3回 実験的研究のレビュー 第4回 質問紙調査法の基礎と実際 第5回 調査研究のレビュー 第6回 実践的研究(介入研究)の基礎と実際 第7回 精神生理学的研究法とは 第8回 研究倫理 第9回 質的研究とは 第10回 KJ法の実践①：概要と手続き 第11回 KJ法の実践②：ラベル作り 第12回 KJ法の実践③：グループ化 第13回 KJ法の実践④：図解化 第14回 KJ法の実践⑤：文章化 第15回 KJ法の実践⑥：論文化に向けて 【授業及び学習の方法】 第1回は川人・野口、第2回～第8回は川人、第9回～15回は野口が担当します。 授業は講義および演習形式です。前半8回は講義を中心に進めますが、適宜グループワークを取り入れます。後半7回では講義および演習を中心に進めます。			

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習について】

第2回～第8回は、講義の理解を促進するための事前学習を課しますので、実施の上授業に臨んでください（30時間）。第9回～第15回は、講義に加えてグループワークを行います。主にK J法の実践について学びますので、毎回の事前学習（2時間）および事後学習（2時間）をそれぞれ心がけましょう。

教科書・参考書等

適宜資料を配布します。

参考書：村井潤一郎・藤川 麗（2018）. 心理学研究法 遠見書房 2,400円＋税

オフィスアワー 野口：三木キャンパス講義棟3階 火曜日昼休み

川人：三木キャンパス講義棟3階 火曜日昼休み

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業は毎回出欠をとります。なお、病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B3PSY-bcxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード:780120) 学習・言語心理学 Psychology of Learning and Language	科目区分	時間割 後期水4	対象年次及び学科 3～医(看・臨)臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 bcx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子	関連授業科目 心理学概論		
	履修推奨科目 心理学概論		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
本授業では、条件付け、社会的学習、動機づけ、言語発達などのテーマをとりあげ、人間の学習・言語機能についての基礎的知識の習得を目指します。また、それらの学習・言語研究の成果が、教育や臨床、人間関係にどのように応用できるのか検討し、人間の心の働きとその仕組みについての理解の深化を促します。			
授業の目的			
ヒトの学習・言語習得の機序ならびにその障害を理解し、概説できることを目指します。また、学習・言語研究の成果を日常生活でどのように役立てられるか考察します。			
到達目標			
1. ヒトの学習・言語習得等の機序について説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 2. 学習や言語発達に関する機序を理解した上で、その障害について説明できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
成績評価の方法			
小テスト30% (主に到達目標1に対応)、発表60% (主に到達目標2に対応)、授業態度10% (到達目標すべてに対応)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1回の授業では、講義と小テストへの回答を求めます。また、授業内容を理解するため、適宜グループワークを取り入れて授業を進めます。			
1. オリエンテーション：授業の進め方、学習・言語心理学とは【講義と小テスト】 2. 学習の基礎【講義と小テスト】 3. 古典的条件付け：理論と具体例【講義と小テスト】 4. 古典的条件付け：消去・汎化・弁別【講義と小テスト】 5. 古典的条件付けの心理学的応用方法【発表1】 6. オペラント条件付け：理論と具体例【講義と小テスト】 7. オペラント条件付け：消去・汎化・弁別【講義と小テスト】 8. オペラント条件付けの心理学的応用方法【発表2】 9. 技能学習【講義と小テスト】 10. 社会的学習【講義と小テスト】 11. 技能学習および社会的学習の心理学的応用方法【発表3】 12. 問題解決と推理【講義と小テスト】 13. 言語の習得【講義と小テスト】 14. 非言語的・前言語的コミュニケーション【講義と小テスト】 15. 言語に関する心理学的応用方法【発表4】			
この科目は、基本的に対面授業を行います。 なお、状況によっては遠隔授業に変更する可能性もあります。			
【自学自習について】			
この授業では、学習・言語心理学を使って日常の問題や障害を理解することを目的としています。そのため、授業の内容をもとに、自分や他者の行動・クセについて積極的に考えてみましょう。(30時間)			

全4回のグループ発表では、グループで協力して活動してください。(30時間)
教科書・参考書等 Moodleより、適宜資料を配布します。 参考書：山内光哉・春木 豊 (2001) . グラフィック学習心理学：行動と認知 サイエンス社 2,550円＋税 楠見 孝 (2019) . 学習・言語心理学 遠見書房 2,600円＋税
オフィスアワー 三木キャンパス・講義棟3階 木曜日昼休み
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 小テストへの回答をもって、出欠をとります。なお、病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。
教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B3PSY-bdxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780140) 神経・生理心理学 Neuro- and Physiological Psychology	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 bdx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 角 徳文	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
神経心理学と生理心理学は、歴史的にも異なった背景で発展を遂げてきた学問である。神経心理学は、脳損傷による心理・行動的な影響に焦点を当てる学問領域であり、おもに医学分野で発展を遂げてきた。一方、生理心理学は、健常者や動物を対象として、中枢神経や自律神経の機能が心理や行動にどのような影響を及ぼすかに焦点を当てる学問領域であり、さまざまな生理学的測定法を用いる点が特徴でもある。このような背景の違いがあるが、本講義では関心領域が重なる、近い点も含めて同時に取り上げらる。			
授業の目的			
神経心理学、神経生理心理学とはいかなる学問かに始まり、その基礎的事項について学び、神経心理学的・神経生理学的思考を心理臨床・研究において実践できるようになることを目的とする。			
到達目標			
1. 脳神経系の解剖と機能について復習し、それらが障害を受けた時にどのような症状がみられるか説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「地域理解」に対応) 2. 神経心理学上必要なアセスメント方法について説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「地域理解」に対応)。			
成績評価の方法			
レポート 100%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 中枢神経系の構造 第2回 神経システムの基礎 第3回 神経・生理心理学の方法論 第4回 知覚障害、体性感覚、運動障害の評価方法 第5回 体性感覚と運動の障害の評価方法 第6回 言語の障害と評価方法 第7回 情動の障害と評価方法 第8回 記憶の障害と評価方法 第9回 注意の障害と評価方法 第10回 遂行機能の障害と評価方法 第11回 神経疾患のタイプと障害 第12回 睡眠の生理、その他 第13回 認知リハビリテーション 第14回 画像・脳波研究 第15回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は集中講義で行う予定。日程は学生との相談で決定する。 例) 1日5コマで計3日間			
【自学自習のためのアドバイス】			

脳神経系の解剖と機能について復習（3時間）
教科書・参考書等 参考図書 公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学 [神経・生理心理学]医歯薬出版（2018/4/6） 第10巻 神経・生理心理学（公認心理師の基礎と実践シリーズ）遠見出版 など
オフィスアワー 火曜日13～16時（ただしアポイントお願いします）（基礎臨床研究棟）。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 学部1、2年で学んだ医学的な知識が生かされることも多いので、自習・復習してください。
教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B3PSY-bcxM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 780160) 青年心理学 Psychology of Adolescence	科目区分	時間割 後期火1	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 bcx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 林 智一	関連授業科目 発達心理学		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
<p>青年期が心理学の研究対象としてとりあげられるようになったのは、20世紀初頭のことである。社会人となるために長い教育期間が必要とされるようになり、青年期の延長ということが言われて久しい。もはや子どもではなく、いまだ大人でもない青年期を生きることの意味を、心理学は問い続けてきた。</p> <p>この授業は、テキストをもとにした講義として行い、内容は生涯発達における青年期の特徴、自我発達と恋愛、親子関係・友人関係、学校や社会との関わりなどを含んでいる。受講者の積極的関与を促すため、心理尺度の実施と、それらをもとにしたグループワークおよびレポートの執筆などを行う。</p>			
授業の目的			
<p>青年心理学に関する研究の蓄積を知り、現代青年の心性を明らかにすることを目的とする。とりわけ教育を中心にして、広く青年を対象とした心理援助者を目指す受講者が青年期の心性について、基礎知識を習得できることが焦点となる。また、受講者の多くは現在、青年期にある人であると推察される。自分自身の青年期を、そして人生を豊かなものとするためにも、青年心理学を活用して自己理解を深めてもらいたい。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期の発達上の特徴について説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 2. 青年期に多く見られる心理的不適応とそのケアについて説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 3. 自身の生い立ちを振り返ったり、心理尺度を活用したりするなどして、自己理解を深め、レポートが執筆できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・レポート+受講態度50% (授業内のミニレポート提出を含むレポート課題、グループワークへの関与と発表など) ・定期試験50% 			
成績評価の基準			
<p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <p>合格又は了 到達目標を達成している。</p> <p>不合格 到達目標を達成していない。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 インTRODakション・一生の中の青年期			
第2回 青年期のアイデンティティの発達①: さまざまなアイデンティティ			
第3回 青年期のアイデンティティの発達②: アイデンティティステータス尺度			
第4回 青年期の恋愛①: アイデンティティのための恋愛			
第5回 青年期の恋愛②: 愛の本質的特徴			
第6回 青年期の親子関係①: 親子関係の発達の变化			
第7回 青年期の親子関係②: 青年期の子育てと親の発達課題			
第8回 青年期の友人関係①: 生涯発達の中での友人関係			
第9回 青年期の友人関係②: 友人関係の形成と孤独感			
第10回 青年期と学校①: 青年期における学校の意味			
第11回 青年期と学校②: 学校におけるさまざまな問題			
第12回 社会に出ていくということ①: 仕事、フリーター、ニート			
第13回 社会に出ていくということ②: 社会にどう出るか			
第14回 青年期をめぐる歌の世界			
第15回 レポートのピアレビュー			
【授業並びに学習の方法】			

教科書をもとに講義を行います。講義だけでなく、授業テーマに関連した心理尺度などを実施して、シンク・ペア・シェアで検討したり、レポートを執筆するなど、アクティブラーニングを活用します。

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態をすべてあるいは一部、遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1回～第13回：各回のテーマの教科書該当箇所を熟読し、不明の用語については心理学事典、引用・参考文献などで調べ、予習してください（準備学習2時間×13回＝26時間）。

もちろん復習も重要です。ノートは授業後に作成すること。授業中にノートを完成する余裕はないはずで、授業中は良く聴き、理解することに専念してください（事後学習2時間×13回＝26時間）。

第14回・第15回：ルーブリックをもとにレポートを受講者間で添削、評価します。また、受講者数名に全員の前でレポートを発表してもらい、全体で討議します（レポート執筆4時間、事後学習2時間×2回＝4時間）。

一般的に：レポート課題（ミニレポートを含む）が多いので、授業外に資料を調べ、自分なりに考えて執筆するという主体的・能動的な学修が求められます。レポート執筆の際に不可欠なので、『レポートの組み立て方』を必ず熟読しておくこと。レポート執筆の技能は、本科目に限らず、卒業後も含めて今後も常に求められます。

授業内で紹介する推薦図書などは、積極的に興味を持って読み進めること。そのうちの1冊を各自で選び、レポート課題とします。その1冊に限らず、可能な限り推薦図書には目を通してください。試験やレポートに直接、関連しなくても、それが視野を広げ、授業テーマを相対化・客体化して理解すること、すなわち理解の深化につながります。

教科書・参考書等

教科書

- ・大野 久（編著） 2010 エピソードでつかむ青年心理学 ミネルヴァ書房（2600円＋税）。
- ・木下是雄 1994 レポートの組み立て方 筑摩書房（ちくま文庫）（757円＋税）。

参考書等

- ・国語辞典（電子辞書でも可。）
- ・心理学事典（平凡社、誠信書房、有斐閣など）
- ・川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩 2008 これから生きる心理学－「出会い」と「かかわり」のワークブック－ ナカニシヤ（1800円＋税）。

オフィスアワー 水曜日16：20-17：00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業回数の3分の2以上の出席がないと、単位は与えられません（試験、レポート評価を受けられません）。

教員の実務経験との関連

担当教員は公認心理師、臨床心理士の資格を有しています。小・中・高、高等専門学校でのスクールカウンセラーの経験を有する教員が担当し、実務経験をもとに青年期の心性について授業を行います。

ナンバリングコード B3PSY-bceM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード:780170) 障害者・障害児心理学 Psychology for Adults & Children with Disabilities	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 bce・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 竹森 元彦, 角 徳文	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
心理援助者は、多様な臨床現場で、種々の障害を持った成人や児童と出会うことになる。したがって、将来の心理援助者を目指す受講者にとって、障害者・障害児の心理を理解し、さまざまな状況の中、障害の特性、個々の特性に応じて、その人の主体性を尊重した心理支援を実現するための技能を習得することは不可欠である。さらに言えば、誰もが障害者となる可能性を有している。受講者自身も例外ではない。上記のことを講義する。			
授業の目的			
この科目では、身体障害、知的障害及び精神障害について概説できる知識、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる知識、高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる知識を身につける。			
到達目標			
1. 身体障害、知的障害及び精神障害の概要が説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。 2. 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援(法規を含む)について説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。 3. 高齢者の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法			
テスト50%、レポート50% (評価は担当者ごとに行う)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回: イントロダクション、スケジュールなど (竹森) 第2回: 高齢者の心理社会的課題及び必要な支援 (桑田) 第3回: 医療現場における高齢者への心理的支援① (桑田) 第4回: 医療現場における高齢者への心理的支援② (桑田) 第5回: 介護現場における高齢者への心理的支援① (桑田) 第6回: 介護現場における高齢者への心理的支援② (桑田) 第7回: 高齢者に対する心理的支援の実際① (桑田) 第8回: 高齢者に対する心理的支援の実際② (桑田) 第9回: 児童福祉施策の基盤となる法律など (角) 第10回: 障害者・障害児者への支援 (1) (角) 第11回: 障害者・障害児者への支援 (2) (角) 第12回: 高齢者福祉領域に関する支援 (角) 第13回: 虐待について (1) (角) 第14回: 虐待について (2) (角) 第15回: まとめ (角) 【授業及び学習の方法】 (桑田) 講義を中心とし、グループディスカッション、ミニレポート執筆なども行います。なお、この科目は全回、遠隔授			

業を行います。

(角)

進行によって授業計画の内容は前後するかもしれません。

【自学自習のためのアドバイス】

第2～8回：高齢者の理解、疾患や実際の支援方法についてなど、図書館などを利用して調べ、整理してください。推薦図書などを授業内で適宜、紹介しますので、自発的・能動的に読み進めてください（準備学習2時間×8回＝16時間）。ノートが授業内に完成することはできないので、授業後にノートを作ってください。レポートは、みずからの考えを整理し、深化させる機会としてください（事後学習2時間×8回＝16時間）。（桑田）

第9～15回：（準備学習2時間×7回＝14時間、事後学習2時間×7回＝14時間）。（角）

教科書・参考書等

（桑田）参考書：黒川由紀子・扇澤史子編著（2018）『認知症の心理アセスメント はじめの一步』医学書院。（本体2,800円+税）その他の参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー 桑田：アポイントにより考慮します。遠隔時はkuwata@heartful-health.or.jpまでメールして下さい。

角：火曜日 13時～16時（ただしアポイントお願いします）（基礎研究棟）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業回数の3分の2以上の出席がないと、単位は与えられません（試験、レポート評価を受けられません）。

教員の実務経験との関連

公認心理師資格を有する医師である教員1名、心理援助者の教員1名が、前半8回と後半7回を分担して授業を行います。

ナンバリングコード B3PSY-cabM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 780190) 心理演習Ⅳ (グループ・コミュニケーション演習) Seminar in Psychology Ⅳ (Group Communication)	科目区分	時間割 後期月3	対象年次及び学科 3～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 cab・M	対象学生・特定プログラムとの対応 2 O
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 山田 俊介, 竹森 元彦, 坂中 尚哉, 太田 美里	関連授業科目 心理演習Ⅰ (コミュニケーション演習)、心理演習Ⅱ (心理面接演習) 履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回 + 自学実習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 小グループでのコミュニケーションを実際に体験し振り返りを行うことを通して、自己理解と他者理解を深めるとともに、コミュニケーションの過程のあり方について考える。 グループに分かれて、それぞれのグループ単位にて、実施する。			
授業の目的 対人関係を促進するためには、自分の中で何が起きているか (自分の気持ちの動き)、相手の中で何が起きているか (相手の気持ちの動き)、相手と自分の中で何が起きているか (相互の影響過程) を認識することが重要であると考えられている。グループでの様々なワークと振り返りを通して、対人関係を支える、自分と他者の関係性や自分の体への気づき、その体験から、自分のコミュニケーションの特徴を知ると共に、心理援助者としてのコミュニケーションはどうあるべきかを考えることを目的とする。			
到達目標			
1. 自分のグループでの動き、他者への関わりや気持ちの動きについて振り返り、その特徴や課題を述べるができる。(DP「問題解決・課題探求能力」、「言語運用能力」に対応) 2. 他のメンバーのグループでの動き、他者への関わりについて振り返り、気持ちの動きや影響した要因について述べるができる。(DP「問題解決・課題探求能力」、「知識・理解」に対応) 3. グループ・コミュニケーションの内容や進み方について振り返り、その過程や影響した要因・重要となる要因について述べるができる。(DP「問題解決・課題探求能力」、「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 小レポート20%、グループ発表への参加度(40%)、末期レポート40%。なお、欠席が4回で不可とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション・導入ワーク (竹森・坂中)			
第2回 集団コラージュの体験と振り返り (竹森・坂中)			
第3回 ファミリーロールプレイ① (竹森・坂中)			
第4回 ファミリーロールプレイ② (竹森・坂中)			
第5回 体験の振り返り (見守ること) (竹森・坂中)			
第6回 描画演習1 (坂中・竹森)			
第7回 描画演習2 (坂中・竹森)			
第8回 描画演習3 (坂中・竹森)			
第9回 クレクソグラフィ演習1 (坂中・竹森)			
第10回 クレグソグラフィ演習2 (坂中・竹森)			
第11回 半構成的エンカウンター・グループ (山田・坂中・太田)			
第12回 半構成的エンカウンター・グループ (山田・坂中・太田)			
第13回 半構成的エンカウンター・グループ (山田・坂中・太田)			
第14回 半構成的エンカウンター・グループ (山田・坂中・太田)			
第15回 半構成的エンカウンター・グループ (山田・坂中・太田)			

【授業及び学習の方法】

授業のほとんどは、小グループによる、グループワークです。各セッションで、小レポートを課し、演習で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。

この科目は全回対面授業で行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1回 グループワークを通して何を考えたいのか、自分なりの問題意識を明確にします。小レポートを作成します。(2時間)。

第2回 集団コラージュの体験を振り返り、非言語的アプローチについて考察します。小レポートを作成します。(2時間)。

第3～4回 ファミリーロールプレイを通して、家族の機能やシステムについて振り返り考察します。小レポートを作成します。(4時間)

第6回～第8回 描画法(表現療法)を通して、自己の心象風景について振り返り考察します。小レポートを作成します。(6時間)。

第9回～第10回 クレグソグラフィ(インクの染み遊び)を通して、自己の心の投影について振り返り考察します。小レポートを作成します。(4時間)

第10～14回 半構成的エンカウンターグループを通じての体験を通して振り返り考察します。小レポートを作成します。(8時間)

第15回 全体で、個々の気づきを発表・表現して、それらの体験を共有します。その体験を通して振り返り考察します。最終レポートを作成します。(3時間)

教科書・参考書等

その都度、印刷資料を渡します。

オフィスアワー 授業終了後の時間にて。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

体験学習であるので、極力欠席しないこと。また、話し合いには真剣で誠実な態度で臨み、内面の動きを丁寧にくみ取っていくことができるように集中して取り組むこと。

教員の実務経験との関連

公認心理師、臨床心理士の資格を持ち、心理援助の経験をもとに、グループ演習を行います。

ナンバリングコード B3PSY-bceM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780220) 福祉心理学 Psychology for Social Welfare	科目区分	時間割 前期木4	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 bce・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 竹森 元彦, 岡崎 昌枝	関連授業科目 高齢者福祉論 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学実習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要			
福祉心理学について、児童養護、高齢者の福祉心理臨床の実際、社会福祉の専門からみた福祉心理学という内容から講義する。福祉心理学とは、まだ歴史の浅い学問であるが、福祉領域の心理臨床が必要とされている現状を鑑みると、たいへん重要な領域と言える。福祉とは、ひとびとがより豊かに、幸福に生きるという、社会的弱者の理解と支援という哲学や倫理とも深く関連する。クライアントに出会った時に、その人の福祉まで視野を広げて、さらには、その人が生きる社会的な問題にも目を広げていくことが重要である。例えば、虐待は、虐待する家族だけの問題ではなく、その社会がもつ歪みが映し出されたものであるという認識などは具体的な例である。			
授業の目的			
福祉心理学は、社会福祉の主な対象として考えられる高齢者や障害者、社会的養護を受ける児童等、生きるうえで弱い立場で置かれがちな人びとに対する適切な支援を行うために心理学の面から考える。同時に、福祉心理学はこうした立場に置かれがちな人びとに対してだけでなく、すべての人びとがより豊かに、幸福に生きることにつながる well-being (よりよい生き方、在り方) の考えにつながっている。このような福祉心理学の基本的な考え方と共に、高齢者や障害者、社会的養護を受ける児童、社会的弱者の理解と心理的支援について、講義			
到達目標			
1. 福祉心理学の歴史と概要、基本的な考え方について説明できる(DPの「知識・理解」と対応)。 2. 社会的養護の現状と、児童養護施設入所児童等の心理と心理的支援について説明できる(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」と対応)。 3. 高齢者の心理的理解と心理的支援について説明できる(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」と対応)。 4. 社会福祉の基本的考え方から見た、福祉心理学との違いとそれらの統合的視点の重要性について説明できる(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」と対応)。 5. 福祉的支援を考える上で、心理援助職の他職種との違いと連携の在り方について説明できる(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」と対応)。			
成績評価の方法			
毎回のミニレポート(20%)、各教員のレポート3回分(80%)にて評価する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション・福祉心理学についての歴史と概要、基本的な考え方についての解説(竹森①)			
第2回 社会福祉の観点からみた、福祉心理学について(岡崎①)			
第3回 高齢者や障害者、社会的養護を受ける児童、社会的弱者の理解と支援(岡崎②)			
第4回 高齢者や障害者、社会的養護を受ける児童、社会的弱者の理解と支援(岡崎③)			
第5回 高齢者や障害者、社会的養護を受ける児童、社会的弱者の理解と支援(岡崎④)			
第6回 心理援助職と社会福祉士、医療従事者、関連施設との連携について(岡崎⑤)			
第7回 心理援助職と社会福祉士、医療従事者、関連施設との連携について(岡崎⑥)			
第8回 心理援助職と社会福祉士、医療従事者、関連施設との連携について(岡崎⑦)			
第9回 心理援助職と社会福祉士、医療従事者、関連施設との連携について(岡崎⑧)			
第10回 児童虐待、ひきこもりへの心理的支援(竹森②)			

- 第11回 家族・職員への心理的支援（竹森③）
 第12回 災害などの心理的支援、香川県DWATについて（三木①）
 第13回 児童相談所の臨床、児童養護の現状と課題（佐々木①：集中講義）
 第14回 児童相談所の臨床、児童養護の現状と課題（佐々木②：集中講義）
 第15回 児童相談所の臨床、児童養護の現状と課題（佐々木③：集中講義）

【授業及び学習の方法】

講義を中心とし、シンクペアアンドシェアやグループディスカッション、レポート執筆なども行います。受講者にとってより実感しやすいかたちの授業にするためにマンガや映画を教材として使用します。この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1回 オリエンテーションを通して、自分の問題意識についてまとめる（2時間）
 第2回～9回 各回のテーマ別に現状と課題についてまとめる（事前・事後学習2時間×8回＝16時間）
 第10回～11回 児童虐待、ひきこもりの現状と心理的支援について調べ、整理する（4時間）。
 第12回 災害における心理的支援、姿勢、どのようなことができるのか等をまとめる（2時間）。
 第13～15回 心理援助者をめぐる児童相談所や児童養護の課題について（6時間）

教科書・参考書等

中島健一（編） 2018 福祉心理学 遠見書房 2,600円+税
 （参考）木下是雄 1994 レポートの組み立て方 筑摩書房 858円（税込）

オフィスアワー 木曜日 12:30～13:00（研究室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

児童福祉臨床、高齢者福祉臨床、社会福祉の観点からの講義となります。いわゆる、個を見る心理学だけではなく、社会や制度に目を向けた社会福祉的観点を学ぶように心がけてください。心理的支援をする上での視野が広がります。準備と事後学習によって、関連内容にも目を向けてください。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B3PSY-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 780230) 司法・犯罪心理学 Forensic and Criminal Psychology	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 浦田 洋, 坂中 尚哉	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
犯罪心理学の歴史から学びを始め、個々の犯罪(財産犯・粗暴犯・薬物事犯・性犯罪)についてそのメカニズムや適切な処遇の在り方等を解説し、その後、捜査心理学の重要な話題であるプロファイリング、虚偽検出、司法面接等について、その概要を説明します。その後、犯罪心理学を活かした職業である、家庭裁判所調査官、矯正施設における法務技官(心理)や法務教官、保護観察官の業務を具体的に解説します。こういった多様な内容を学ぶことで、司法・犯罪領域における心理臨床の内容の包括的な理解に至ります。			
授業の目的			
加害としての犯罪・非行、犯罪被害等について、及び、司法・犯罪領域が日々直面している各種問題に対する心理支援について、基本的な知識を身に付けることができるようになる。			
到達目標			
1. 司法・犯罪領域の制度及び同領域の心理臨床の在り方を関係づけることができる。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
2. 犯罪の要因やメカニズムに関する各種理論の概要を説明できる。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
3. 警察関係機関、家庭裁判所(少年・家事)、少年鑑別所、少年院、刑事施設、保護観察所、被害者支援領域における心理臨床業務を説明できる。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
4. 非行・犯罪に関するアセスメント及び処遇技法が使用できる。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法			
期末レポート50%, 受講態度50%			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (全て遠隔(オンライン)で実施します)			
第1回: 司法・犯罪心理学の基礎知識			
第2回: 犯罪心理学の展開			
第3回: 各種犯罪(1) 財産犯・粗暴事犯等			
第4回: 各種犯罪(2) 薬物事犯			
第5回: 各種犯罪(3) その他の依存			
第6回: 各種犯罪(4) 性犯罪(その1)			
第7回: 各種犯罪(5) 性犯罪(その2)			
第8回: 捜査心理学(1) プロファイリング			
第9回: 捜査心理学(2) 虚偽検出の理論・証言の心理学			
第10回: 精神鑑定			
第11回: 家庭裁判所における心理臨床			
第12回: 少年鑑別所における心理臨床			
第13回: 少年院・刑事施設における心理臨床			
第14回: 犯罪被害者支援			
第15回: まとめ			

<p>【授業及び学習の方法】 授業は遠隔（オンライン）による講義中心に進めます。適宜、チャット機能などを使って、履修生との双方向のやり取りを行います。また、毎回授業の最後に、その回の感想や疑問を提出してもらい、次回の授業の最初に質問に対して答えたり、前回授業では扱わなかったものの感想から触発されて思いついた話題について説明する形での双方向性も持たせます。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】 毎回授業の前にシラバスに目を通し、授業で扱う話題について確認するとともに、その話題について取り上げてほしい内容や尋ねたいことを確認しておくことで、授業により積極的に参加できるようになります。また、授業の終わりに配布するレジュメを確認することで、授業内容を的確に確認できます。（毎回2時間）</p>
<p>教科書・参考書等 教科書：特に指定しません。 参考書：授業中に適宜紹介します。</p>
<p>オフィスアワー 昼休み</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。</p>
<p>教員の実務経験との関連 国家公務員I種（現在の総合職）の心理専門職として法務省に採用され、矯正管区・刑事施設・少年鑑別所で勤務したり、在外研修で得た経験をもとに講義を行います。</p>

ナンバリングコード B3PSY-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード:780240) 産業・組織心理学 Industrial and Organizational Psychology	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 野口 修司	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
近年、職場における過重労働やハラスメントといったストレスに基づく心理的問題が大きな社会的問題として取り上げられ、それに伴ったストレスチェック制度の義務化といった職場におけるメンタルヘルス支援が国を挙げて推し進められている。その一方で、心理援助者による産業分野における心理支援はまだ発展段階にあり、これからますます重要になってくることが見込まれる。本授業では、産業分野における心理的関連について理論と事例を交えながら取り扱っていく。			
授業の目的			
本授業の目的は、職場における問題に対して必要な心理に関する支援および組織における人の行動について理解することである。後半では、一般職員および管理職それぞれにおける具体的なメンタルヘルス支援および、システミック・アプローチに基づいた職場における心理支援について、事例等を踏まえながら紹介する。			
到達目標			
1) 組織における人の行動について、説明することが出来る (DP「知識・理解」に対応)。 2) 職場における問題に対して必要な心理に関する支援について、説明することが出来る (DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。			
成績評価の方法			
授業態度 (20%) + 中間テスト (40%) + 期末テスト (40%)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 産業・組織心理学とは			
第2回 産業保健の歴史			
第3回 職場のストレス理論 (1) 基本的モデル			
第4回 職場のストレス理論 (2) 応用的モデル			
第5回 キャリア理論 (1) 発達の理論と特性的理論			
第6回 キャリア理論 (2) 構築理論			
第7回 キャリア理論 (3) キャリア・アセスメントの体験			
第8回 中間試験			
第9回 職場のグループ・ダイナミクス (1)			
第10回 職場のグループ・ダイナミクス (2)			
第11回 職場のリスクマネジメント			
第12回 産業分野における心理支援の仕組み			
第13回 メンタルヘルス研修の実際			
第14回 産業領域におけるカウンセリングの実際			
第15回 これまでの振り返り			
【授業及び学習の方法】			
興味を持った内容については、積極的に本やインターネットなどで調べましょう。授業の内容を知識としてだけ受け取るのではなく、自分の日常生活にどのように関わりがあるのかを考えることによって、興味や理解はさらに深まります。			

<p>なお、本授業は基本的に対面授業を行います。状況によっては遠隔授業へ変更します。</p>
<p>【自学自習のためのアドバイス】 授業の前には予習（各回2時間程度の事前学習）をし、それを踏まえて授業の内容を確認してください。また、授業の後には復習（各回2時間程度の事後学習）をすることで、内容をしっかりと理解することを心がけましょう。</p>
<p>教科書・参考書等 適宜、資料を配布する。</p>
<p>オフィスアワー 月曜日 12:00～13:00（事前にアポイントメントを取ること）</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ 成績は出席・授業態度、中間テスト、期末テストの3点から評価しますので、しっかりと授業に出席して講義を聴いてもらうことが重要となるでしょう。</p>
<p>教員の実務経験との関連</p>

ナンバリングコード B3PSY-cbdM-20-Ex 授業科目名 (時間割コード: 780260) 心理演習Ⅲ (心理的アセスメント演習) Seminar in Psychology Ⅲ (Psychological Assessment)	科目区分	時間割 前期水1	対象年次及び学科 3～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 cbd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 橋本 忠行, 林 智一, 坂中 尚哉	関連授業科目 心理的アセスメント		
	履修推奨科目 感情・人格心理学		
学習時間 講義・演習90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
心理的アセスメントに関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、心理に関する支援を要する者(クライアント)を対象にした心理検査の技能について講義と演習を行う。演習では、未就学児を対象にした発達検査や児童・成人・高齢者を対象にしたさまざまな個別式知能検査・神経心理学的検査の実施、結果の整理、解釈、そして報告書の作成を扱う。			
授業の目的			
公認心理師法第2条では、公認心理師の業のひとつとして「心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること」が定められている。そのためには、検査、面接、観察による心理的アセスメントを通して、心理に関する支援を要する者等を理解するための方法を修得することが必要である。学部学生は、心理検査等を標準化された手続きに従って実施できる「技術者」としての技能を身につけることが目標となる。			
到達目標			
1. 心理的アセスメントの方法(観察、面接及び心理検査)を理解し、倫理的な配慮のもとに標準化された方法で自ら実施できる(DP「倫理観・社会的責任」「問題解決・課題探求能力」に対応) 2. 心理的アセスメントの結果と過程について、適切な記録及び報告ができる(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法			
演習課題(ワークシート)30%(到達目標2)、レポート70%(到達目標1・2)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回: オリエンテーション			
第2回: 心理検査報告書の書き方			
第3回: 心理的アセスメントの事例研究			
第4回: 児童を対象にした知能検査①: 田中ビネーV①実施法			
第5回: 児童を対象にした知能検査②: 田中ビネーV②結果の分析と解釈			
第6回: 特別支援教育と心理的アセスメント①: DN-CAS			
第7回: 特別支援教育と心理的アセスメント②: AQ自閉症スペクトラム指数、Conners-3			
第8回: 未就学時を対象にした発達検査・知能検査: 遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査、WPPSI-III			
第9回: 子どもと家族の治療的アセスメント: 事例研究			
第10回: 神経心理学的検査①: BGT、ベントン視覚記憶検査、Rey-O複雑図形			
第11回: 神経心理学的検査②: 三宅式記憶力検査、WCST			
第12回: 認知症の心理的アセスメント①: HDS-R、MMSE-J			
第13回: 認知症の心理的アセスメント②: MEDE、日本語版コグニスタット認知機能検査			
第14回: 投映法を用いた心理的アセスメント			
第15回 まとめ			
【授業および学習の方法】			
第1回～第2回: テキスト、配付資料、パワーポイント等を用いて各テーマについての講義を行う。			
第4回～第8回、第10回?第14回: 各心理検査の演習を行う。①各技法の標準的な実施法、②結果の整理、③解釈と報告(レポートの作成)、④臨床的活用の流れで学習を進め、その一連の過程を修得する。各検査等の適切な記録及			

び報告を含む

第3回、第9回、第15回：担当教員が提示する資料をもとに、講義と小グループでの検討を行う。

*適宜小グループでのディスカッションを行う。

*この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1回～第2回では、テキストの予習と授業後の復習を行う（4時間×2回=8時間）。第4回?第14回では、それぞれ授業内で演習した心理検査について、結果の整理、解釈、自己分析等を行う（4時間×10回=40時間）。第3回、第15回では事例等についての振り返りを行う（4時間×3回=12時間）。

教科書・参考書等

教科書：「公認心理師の基礎と実践⑭—心理的アセスメント」（津川律子・遠藤裕乃、2019）（遠見書房）2,600円（税別）

参考書：「アセスメントの心理学」（橋本忠行・佐々木玲仁・島田修、2015）（培風館）2,500円税別、その他各検査のマニュアル等は適宜提示します。

オフィスアワー 時間：火曜日12:00-13:00

場所：講義棟3階橋本研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

2年次前期科目「感情・人格心理学」、2年次後期科目「心理的アセスメント演習」との連続性を意識する。演習の事前学習、事後学習（心理的アセスメント報告書の作成）には時間をかけて、しっかりと取り組むこと

教員の実務経験との関連

医療保健領域（精神科病院、大学病院の精神科等）、司法領域（警察少年サポートセンター）、心理教育領域（心理臨床相談室、心理臨床センター、大学の学生相談室等）で心理アセスメントを実践してきました。

ナンバリングコード B3PSY-bceM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780280) 健康・医療心理学 Health and Medical Psychology	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 bce・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 竹森 元彦, 長谷 綾子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間+事後学習 30時間)			
授業の概要			
現在の医療現場では、疾患のみならず医療者と患者の関係性を重視する傾向にある。さらに疾患の予防という観点から、健康の維持・増進も重要なテーマとなっている。そこで重要となるのが、患者の心理や医療者との対人関係などを中心とした心理学的視点である。医療・健康心理学は、基礎心理学、臨床心理学、医療心理実践からなるものであり、本授業では医療・健康領域の心理援助者に求められる実践的な心理学的知見の習得を目的とする。授業は講義として行い、内容は患者の心理や医療者と患者との関係、チーム医療、健康の維持・増進に向けた心理学的アプローチなどを含んでいる。4名の教員によるオムニバス方式で行う。			
授業の目的			
医療・健康領域で活躍する将来の心理援助者として、学部レベルに必要な知識と技能の習得を目的とする。			
到達目標			
1. 医療・健康領域における心理学的視点の意義や、心理査定、カウンセリング・心理療法、チーム医療について説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「地域理解」に対応)。 2. 心身医学における心理学的視点や心理臨床について説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「地域理解」に対応)。 3. 精神医学における心理学的視点や心理臨床について説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「地域理解」に対応)。			
成績評価の方法			
担当者ごとにレポートもしくは試験を行って評価し、それを合計する。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
1. メンタライゼーションとマインドフルネスから見た健康心理学① (上地) 2. メンタライゼーションとマインドフルネスから見た健康心理学② (上地) 3. メンタライゼーションとマインドフルネスから見た健康心理学③ (上地) 4. メンタライゼーションとマインドフルネスから見た健康心理学④ (上地) 5. メンタライゼーションとマインドフルネスから見た健康心理学⑤ (上地) 6. メンタライゼーションとマインドフルネスから見た健康心理学⑥ (上地) 7. 医療領域における心理的理解と支援① (梶浦) 8. 医療領域における心理的理解と支援② (梶浦) 9. 医療領域における心理的理解と支援③ (梶浦) 10. 医療領域における心理的理解と支援④ (梶浦) 11. 医療領域における心理的理解と支援⑤ (長谷) 12. 医療領域における心理的理解と支援⑥ (川口) 13. 医療領域における心理的理解と支援⑦ (川口) 14. 医療領域における心理的理解と支援⑧ (川口) 15. 医療領域における心理的理解と支援⑨ (川口)			
【授業並びに学習の進め方】			
第1～6回は講義と小グループでのグループワークやディスカッションを行います。 第7～10回は、講義とその振り返りをグループワークとして行います。 第11回は、医療心理実習(心理実習Ⅱ)に関する事前研修などを含みます。			

第11～15回は、講義とその振り返りをグループワークとして行います。

各回、ミニレポートを執筆します。

これらの授業は、基本的に対面による講義を中心に行います。なお状況によっては授業形態を一部またはすべて遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1～6回 担当教員が授業内で紹介する文献などを積極的に読み進めてください。レポートは、みずからの考えを整理し、深化させる機会としてください（事後学習2時間×6回＝12時間）。

第7～15回 担当教員が授業内で紹介する文献などを積極的に読み進めてください。レポートは、みずからの考えを整理し、深化させる機会としてください（事後学習2時間×9回＝18時間）。

教科書・参考書等

テキストは特に指定しません。参考書：下山晴彦・中嶋義文（編） 2016 公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法 医学書院 3,200円+税、岸 太一・藤野秀美（編著） 2017 健康・医療心理学 ナカニシヤ出版 3,200円+税

オフィスアワー 非常勤講師による講義のため、授業終了後の30分程度を、質問などができるので、遠慮なく、授業後に直接に非常勤講師に質問などをしてください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自発的、積極的な学習姿勢を期待しています。

教員の実務経験との関連

公認心理師もしくは臨床心理士を有する、心理援助者である4名（非常勤講師3名、常勤教員1名）が、オムニバス方式で授業を行います。

ナンバリングコード B3PSY-bdaM-20-Ex 授業科目名 (時間割コード: 780300) 人間性心理学 Humanistic Psychology	科目区分	時間割 後期金1	対象年次及び学科 3～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 bda・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 野口 修司, 竹森 元彦	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
人間性心理学は心理学の代表的な立場、アプローチの1つである。人間を自由意志を持った主体として全体としてとらえ、その内面の経験や関係性を了解的、現象学的に理解しようとし、自己実現など将来の可能性を重視する等の特徴を持っている。このような人間性心理学は人間理解や対人援助について大変重要な視点や方法をもたらしている。			
授業の目的			
この授業は講義及び外書講読を通して、人間性心理学の特徴と歴史、代表的な理論やテーマについて理解することを目標としている。			
到達目標			
1. 人間性心理学の特徴と歴史、代表的な理論やテーマについて説明することができる (DPの「知識・理解」に対応)。 2. 人間性心理学の立場から、心理援助者としての倫理観や社会的責任について説明することができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 3. 英語文献を読み、内容を理解した上で、ポイントをまとめて他者に伝える発表ができる (DPの「言語運用能力」、「知識・理解」に対応)。 4. 発表内容をもとにして、受講者間で、人間性心理学への理解を深めるためのディスカッションができる (DPの「言語運用能力」に対応)。			
成績評価の方法			
発表者としての発表内容 (50%)、ディスカッション等での受講者としての発言内容 (50%)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
1. 人間性心理学の特徴と歴史に関する概説と、授業の進め方について (野口) 2. 人間性心理学の特徴と歴史① (野口) 3. 人間性心理学の特徴と歴史② (野口) 4. 人間性心理学の特徴と歴史③ (野口) 5. 人間性心理学の特徴と歴史④ (野口) 6. 人間性心理学の実際① (竹森) 7. 人間性心理学の実際② (竹森) 8. 人間性心理学の実際③ (竹森) 9. 人間性心理学の実際④ (竹森) 10. 人間性心理学の実際⑤ (竹森) 11. 人間性心理学の実際① (熊野) 12. 人間性心理学の実際② (熊野) 13. 人間性心理学の実際③ (熊野) 14. 人間性心理学の実際④ (熊野) 15. 人間性心理学の実際⑤ (熊野)			
【授業並びに学習の方法】			
3名の授業担当教員のオムニバス方式で、外書講読等の演習を行います。また、必要に応じて担当教員が講義をする			

場合もあります。オムニバス方式なので、詳細な進め方については、各担当教員から説明します。

この科目は対面授業（野口、竹森）とオンライン（熊野）を行います。なお状況によっては授業形態を一部またはすべて遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

予習として、教員の紹介する英語文献を読み、不明の用語などは心理学事典や人間性心理学ハンドブックなどで調べておいてください（準備学習2時間×15回＝30時間）。復習として、ディスカッションで疑問の残った点などは、図書館などを利用して調べてください。さらに、授業で講読した文献以外にも、授業内で紹介する他の文献などを、自発的、能動的に読み進める姿勢が求められます（事後学習2時間×15回＝30時間）。

教科書・参考書等

外書講読に使用する文献は、各担当教員が適宜、指示します。

参考書：Schneider, K. J. et al. 2014 The Handbook of Humanistic Psychology: Theory, Research, and Practice SAGE.、人間性心理学会（編）『人間性心理学ハンドブック』創元社、英和辞典、英英辞典など

オフィスアワー 野口：後期金曜日 10:30～12:00 竹森：後期金曜日 10:30～11:30 熊野：Zoomにて質問を受ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

外書講読の演習なので、受講者は必ず予習しておくこと。また、演習形式であるため、授業への積極的関与が求められます。それが評価にも繋がります。

教員の実務経験との関連

公認心理師、臨床心理士資格を持ち、現場での臨床経験を有する教員が担当する。

ナンバリングコード B3PSY-cabM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 780330) 心理演習Ⅱ (心理面接演習) Seminar in Psychology Ⅱ (Psychological Interview)	科目区分	時間割 前期月3	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 cab・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 山田 俊介, 竹森 元彦, 谷淵 真也, 太田 美里	関連授業科目 心理学的支援法(カウンセリング概論)、心理演習Ⅰ(コミュニケーション演習)		
	履修推奨科目 心理学的支援法、心理演習Ⅰ(心理演習Ⅱを受講するためには、心理演習Ⅰを必ず履修し単位を修得している必要があります)		
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 カウンセリング場面のロールプレイの発表・検討を通して、カウンセラーの基本的な応答・態度について学習する。3グループに分かれて、小グループ単位にて実施する。			
授業の目的 カウンセラーの応答・態度の重要性・専門性を理解する。 カウンセラーの応答・態度で重要となる点や留意すべき点、クライアントの語り・気持ちへの影響などに気づく。また、専門的な訓練が必要であることを認識する。			
到達目標			
1. カウンセラーの応答・態度について重要な点や留意すべき点を説明することができる。(DP「知識・理解」に対応) 2. カウンセラーの応答・態度がクライアントの語り・気持ちに及ぼす影響について説明することができる。(DP「問題解決・課題探求能力」、「言語運用能力」に対応) 3. クライアントの発言に対して、共感的理解を心がけて、応答することができる。(DP「言語運用能力」に対応) 4. カウンセラーとしての自分の応答・態度を振り返り、その特徴や課題を述べるすることができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法 各回の討議への取り組み(40%)、カウンセリング・ロールプレイの取り組み・発表(25%)、レポート(35%)により評価する。なお、欠席が4回で不可とする。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1) オリエンテーション (2) カウンセリングの応答の実際 (3) ロールプレイ(1回目)の発表・討議① (4) ロールプレイ(1回目)の発表・討議② (5) ロールプレイ(1回目)の発表・討議③ (6) ロールプレイ(1回目)の発表・討議④ (7) ロールプレイ(1回目)の発表・討議⑤ (8) ロールプレイ(1回目)の発表・討議⑥ (9) カウンセリングの応答の実際 (10) ロールプレイ(2回目)の発表・討議① (11) ロールプレイ(2回目)の発表・討議② (12) ロールプレイ(2回目)の発表・討議③ (13) ロールプレイ(2回目)の発表・討議④			

- (14) ロールプレイ（2回目）の発表・討議⑤
 (15) ロールプレイ（2回目）の発表・討議⑥

【授業及び学習の方法】

カウンセリング場面のロールプレイの発表・検討を中心とする。具体的には、カウンセラー役とクライアント役とが1対1で20分間やり取りを行い、その会話を録音する。カウンセラー役は録音をもとに会話の逐語記録やクライアント理解などの発表資料を作成する。発表に際しては、逐語記録を見ながら録音を聴いた後に、カウンセラー役とクライアント役とが感じたことなどを発表し、それをもとに、やり取りの流れ、カウンセラーの応答や姿勢などについて討議を行う。3グループに分かれて、それぞれのグループ単位にて実施する。

この科目は全回対面授業で行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

* カウンセリング・ロールプレイの実施。カウンセラー役とクライアント役の両方を2回ずつ経験し、発表資料の作成と発表を行う。

* 各回の授業で検討したカウンセリング・ロールプレイについて、授業後に振り返りを行い、カウンセリング過程の展開の仕方・特徴、カウンセラーの応答・姿勢がクライアントの語り・気持ちに及ぼした影響などについて整理する。

教科書・参考書等

特に指定しない。

オフィスアワー 月曜日12:00～12:50

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講には「心理演習Ⅰ」を履修している必要がある。体験学習であるので、極力欠席をしないこと。また、内面の動きを丁寧に汲み取っていくことが特に重要であるので、真剣に集中して取り組むこと。話し合いにも真剣で積極的に参加することが望まれる。

教員の実務経験との関連

公認心理師、臨床心理士の資格を持ち、カウンセリングなどに携わってきた経験をもとに、カウンセリング・ロールプレイの演習を行います。

ナンバリングコード B3PSY-cbeM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード: 780340) 心理実習 I (心理支援実習) Practical Training in Psychology I (Psychological Support)	科目区分	時間割 通年集中	対象年次及び学科 3～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3PSY	DP・提供部局 cbe・M	対象学生・特定プログラムとの対応 2 O
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 林 智一, 橋本 忠行, 山田 俊介, 竹森 元彦, 坂中 尚哉, 谷淵 真也, 長谷綾子, 太田 美里, 川人 潤子	関連授業科目 公認心理師の職責	履修推奨科目	
学習時間 実習2コマ×15回 (事前指導、事後指導を含む) + 自学自習 (事前学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
児童施設、適応指導教室、福祉施設などでの施設実習(1施設)を行うことによって、教育施設や福祉施設の現状を身をもって理解し、同時に、その体験の振り返りやグループでの討議を通して学生同士の学びを共有をさせる。全体の発表会(各施設ごと)を通して、各施設の実際や実習を通して学んだことについて共有させる。受講者に心理臨床家としての問題意識をいだかせることを狙いとする。			
授業の目的			
施設現場での実習を行うことによって、教育施設や福祉施設の現状を身をもって理解し、同時に、その体験から問題意識をもつことを狙いとする。他の講義による知識と現場体験とが統合することを狙いとする。そのためには振り返りやグループ討議、体験の共有化などの場づくりが重要であり、そのような互いに教え合い、学び合う場として、事前指導、途中指導、事後指導、全体発表会を開催する。			
到達目標			
①施設についてのその歴史や役割について説明できる。(DPの「知識・理解」、「地域理解」に対応) ②施設実習を経験することを通じて、現場に根差した現状と課題について説明できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」に対応) ③卒業論文などにむけて、自己の研究の問題意識につなげて説明することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) ④施設の実際を体験することを通して、自分の心理臨床家としての課題(自己理解と他者理解)について記述できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法			
オリエンテーション、事前指導、途中指導、事後指導への参加・発表・討議(30%)。実際の施設実習への参加の態度・記録(40%)。最終レポート(30%)。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
教育施設、福祉施設の現場実習を、実施する。 (1) オリエンテーション (2) 施設単位にてグループ分け・事前指導 (3) 施設実習① (4) 施設実習② (5) 施設実習③ (6) 施設実習④ (7) 施設実習⑤ (8) 途中指導 (9) 施設実習⑥ (10) 施設実習⑦ (11) 施設実習⑧ (12) 施設実習⑨ (13) 施設実習⑩ (14) 事後指導			

(15) 全体発表会

この科目は基本的に対面実習を行います。なお状況によっては実習形態を一部またはすべて遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1回 施設実習の進め方を理解する。自分自身の課題について明確にする。(予習1時間、復習1時間)

第2回 事前指導を通して、施設の持つ特徴とともに、実習を豊かにするための問題意識を明確にする。(予習1時間、復習1時間)

第3回～第7回 毎回の実習を通して、その一日が、どのような実習体験であったのか、そこから何を感じたのか、学んだのかについて、明確にする。(予習1時間×5=5時間、復習1時間×5=5時間)

第8回 前半の実習を通して、実習を行う上での課題や困り感などを明らかにし、またグループで共有したことなどを記述し、整理する。(予習1時間、復習1時間)

第9回～13回 毎回の実習を通して、その一日が、どのような実習体験であったのか、そこから何を感じたのか、学んだのかについて、明確にする。(予習1時間×5=5時間、復習1時間×5=5時間)

第14回 後半の実習を通して、実習を行う上での課題や困り感などを明らかにし、またグループで共有したことを記述し、整理する。(予習1時間、復習1時間)

第15回 全員が集まって、実習施設ごとに報告資料を作成したものを用いて、実習体験の発表を行い、他の実習施設の発表と討議を通して、自己の課題を深め、最終レポートを作成する。(予習1時間、復習1時間)

教科書・参考書等

教科書は使用しない。

オフィスアワー 各施設指導教員と相談の上、時間を設定して指導を受ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

現場での実習であるので身を引き締めて、実習を行うことを心掛けてほしい。実習中に、困ったことやわからない点があれば、施設担当教員へと相談をすること。

教員の実務経験との関連

教育並びに福祉領域、医療領域などでの心理臨床経験がある専門家であり、臨床心理士あるいは公認心理師の資格を有する。

ナンバリングコード B3MED-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780370) 人体の構造と機能及び疾病V (心理援助職のための内科的疾患概説) Structure and Function of Human Body, and DiseasesV (Outline of Medical Disease for Clinical Psychologist)	科目区分	時間割 前期火3	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学
	水準・分野 B3MED	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 2 O
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 神原 憲治	関連授業科目 早期体験学習 医学概論 心身医学 健康・医療心理学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 社会の複雑化や高度情報化などにより、医療も急速に高度化・複雑化し、ストレス関連疾患、慢性疾患、生活習慣病、緩和ケア領域など、医療全般における心理的問題は年々増加しており、心理職が身体疾患における心理的評価や援助を求められる機会が増えている。また、心理カウンセリングなどの心理臨床現場、福祉、教育、司法、産業ヘルスの各領域でも、成人の機能性身体疾患、小児の腹痛や頭痛などの機能性の症状、発達障害における身体症状、高齢者の認知症に伴う症状など、身体疾患・内科的疾患についての知識が求められている。本講義では、心理職として知識を有していることが望ましい内科学とその周辺分野の概要、各領域の代表的疾患についての概念、症候、評価および治療の概要を概説し、心理援助職としての対応について考察する。			
授業の目的 心理臨床において必要な内科的疾患についての基本的用語や知識を理解し、各診療領域における代表的な疾患、症候、治療法について概要を理解し、身体医学や疾病と臨床心理学がどのように関わるかについて考察する。心理援助職として各領域における臨床現場において評価や援助を行う上で必要な身体医学的知識と考え方を学ぶ。			
到達目標			
1. 身体医学各領域の疾患の基本的な医学用語を理解できる。(DP「知識・理解」に対応) 2. 同各領域の疾患の病態と概念について概説できる。(DP「知識・理解」に対応) 3. 同各領域の代表的な内科的疾患(一部小児科産婦人科領域を含む)について、概要を説明できる。(DP「知識・理解」に対応) 4. 同各領域の代表的な内科的疾患(同上)における心理的側面について評価し、症例を検討できる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 同各領域の代表的な内科的疾患(同上)における心理的援助について、立案・計画ができる。(DP「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 ミニレポート及びケース検討への取り組み(50%)、期末テストもしくは最終レポート(50%)により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 1 イン트로ダクション、内科的疾患概論 2 循環器疾患1 3 循環器疾患2・腎・泌尿器疾患 4 呼吸器・アレルギー疾患 5 感染症・免疫疾患 6 消化器疾患1 7 消化器疾患2 (非常勤講師) 8 生活習慣病 9 内分泌・代謝・栄養疾患			

- 10 腫瘍性疾患、緩和ケア1（非常勤講師）
- 11 腫瘍性疾患、緩和ケア2（非常勤講師）
- 12 脳・神経疾患1
- 13 脳・神経疾患2
- 14 小児科・産婦人科領域の疾患
- 15 総括

【授業の方法】

講義は基本的に教科書に沿って行い、適宜、プリント、スライド、参考書等を用いる。
講義に加えて、グループ分けを行い、各疾患の典型例についてのケース検討を行う。

この科目は基本的に対面授業を行う予定です。一部の授業回（非常勤講師の担当回を予定）では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- ・医学的内容が多く、かつ学習範囲が広いため、事前の予習と事後の復習（それぞれ各回1時間程度）を行い、講義についてくることが重要です。
- ・ケースについては事前に提示するので、各自そのケースについて、教科書、参考書等を参考に事前に学習しておくこと。

※計画に関しては、進捗状況、内容の理解度等によって変更することがあります。
※非常勤講師の講義は変更することがあります。

教科書・参考書等

<教科書>

わかりやすい内科学，第4版，井村裕夫編，文光堂，2014（本体9000円+税）

<参考書>

①心身医学標準テキスト 第3版，久保千春編，医学書院，2009

②医学概論，中島泉，南江堂，2015

③「病気がみえる」シリーズ 医療情報科学研究所（編），メディックメディア（vol. 1～vol. 9）

オフィスアワー 原則として、火曜日15:00-16:00。その他、アポイントメントにより対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義には教科書を持参してください。

一部非常勤講師の担当回は日程が変則的になる可能性があるため、掲示等に注意してください。
自発的、積極的な学習姿勢を期待します。

教員の実務経験との関連

心療内科医としての臨床経験に基づいて講義を行います。

ナンバリングコード B3MED-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780380) 発達小児科学 Growth and development of childhood	科目区分	時間割 後期木2	対象年次及び学科 3～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3MED	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 日下 隆, 岩瀬 孝志, 西庄 佐恵, 近藤 園子, 加藤 育子, 福家 典子, 西田 智子, 小西 行彦	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
発達小児科学は、胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を扱う。小児は大人の縮図ではなく、小児期特有の成長・発達や疾患、そして心の変化がみられる。小児科診療は、病気に罹患した小児だけを対象にするのではなく、疾病予防等により国の将来を担う心身ともに健全な成人を育成することを目的としている。ここでは、胎生期から思春期までつながる基本的な成長や発達、それぞれの年齢で見られる疾患（新生児期の異常、血液疾患など慢性疾患、神経疾患、生活習慣病、アレルギー疾患など）について講義し、さらに、子どもへの公的サービスや健診などの小児保健、母子保健について幅広い情報を提供する。			
授業の目的			
発達小児科学では、心理職者として支援する上で必要な小児医療に関する知識を習得することができる。心理面でのサポートを必要とする子どもは、背景に様々な疾患や発達の問題を抱えていることも多い。ここでは正常の成長や発達を学習し、さらに子ども特有の疾患に関する知識を習得することで、小児クライアントに対して医学的な背景を理解したうえで支援ができるようになることを目指す。			
到達目標			
1. 胎生期より新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の各時期の正常な成長・発達について説明することができる。(DP「知識・理解」に対応) 2. 早産児や新生児期に異常があった子どもの諸問題について、何が支援として必要とされているか具体的に説明することができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 比較的好くみられる子どもの疾患について、病態、症状、治療を説明することができる。(DP「知識・理解」に対応) 4. 育児に不安をもつ親に対する社会的な支援を具体的に述べる。(DP「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法			
学期末に到達目標に準じた試験を行う (期末テスト100%)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 講義は全回すべて対面で行います。 なお、状況によっては授業形態を遠隔へ変更することもあります。			
第1回 胎生期・乳児期・幼児期の正常な成長と発達について 第2回 小児の血液・腫瘍性疾患など長期療養を必要とする疾患 第3回 小児の慢性疾患 第4回 小児の神経・筋疾患 第5回 小児の栄養と生活習慣病・内分泌疾患 第6回 小児の救急蘇生処置 第7回 虐待 第8回 小児の急性期疾患 (感染症など) 第9回 思春期に特徴的な成長・心理発達 第10回 小児のアレルギー疾患			

- 第1 1回 小児の消化器疾患
 第1 2回 染色体異常・小児の遺伝性疾患
 第1 3回 小児の心身症
 第1 4回 新生児疾患、早産児の合併症
 第1 5回 母子相互作用・育児支援・母子手帳・予防接種や健診などの小児保健

【自学自習へのアドバイス】

教科書は特に指定せず、講義資料は各回担当教員が配布する予定です。講義資料を中心に学習し、講義中に生じた疑問については、積極的に質問していただくことを歓迎します。それぞれの疾患や、健診において、心理職としての関わり方や、親とのコミュニケーションの方法などを具体的に考えてください。

事前学習各回1時間、事後学習2時間が目安です。

教科書・参考書等

教科書は特に指定しません。毎回担当教員が資料を配布する予定です。

参考書

- ・白木和夫、他、ナースとコメディカルのための小児科学、改訂第6版、日本小児医事出版社、2022年、4,180円
- ・香美祥二 他、編、最新育児小児病学、改訂第7版、南江堂、2018年、3,300円

オフィスアワー 希望に応じてその都度対応します。お気軽にご連絡ください。

担当；加藤（健康科学）e-mail;kato.ikuko@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

小児は、その月齢・年齢に応じて変化していきます。まずは小児の成長・発達の全体像を理解できるようにしてください。その上で個々の疾患について学びます。講義に参加するだけでなく、復習や自己学習で理解を深め、積極的な質問やご意見を期待しています。

講義時間内で疑問が解決しない場合、直接下記メールへの質問を受け付けます。

kato.ikuko@kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

担当教員は全て小児科専門医であり、小児科医としての診療キャリアがあります。それぞれの疾患について専門性をもった教員や、新生児医療や発達に関する研究にも携わる教員が担当します。その実務経験をもとに、小児の疾患や発達、家族支援、虐待予防等について講義を行います。また、担当の加藤は小児科医であるとともに臨床心理士、公認心理師であり、医療現場での心理職の重要性について、臨床経験を通してお伝えすることが可能です。

ナンバリングコード B3MED-bdxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780390) 精神疾患とその治療 (精神医学) Psychiatry	科目区分	時間割 前期火5	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3MED	DP・提供部局 bdx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 角 徳文	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 精神医学の歴史や現代社会における意義および心理援助者としての最低限の精神医学的知識について講義する。			
授業の目的 精神医学の基礎を学び、リスク管理における心理援助者の役割を学びます。			
到達目標			
精神医学における心理学的視点や心理臨床について説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「地域理解」「倫理観・社会的責任」に対応)。 公認心理師の資格取得を目指す (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法 レポートで評価します			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回：精神医学の歴史、現代社会における精神医学など 第2回：精神症候学 第3回：統合失調症とその類縁疾患 第4回：気分感情障害 第5回：不安障害、ストレス関連障害 (1) 第6回：不安障害、ストレス関連障害 (2) 第7回：強迫性障害、摂食障害など (1) 第8回：強迫性障害、摂食障害など (2) 第9回：身体症状及び関連障害 第10回：器質性障害やてんかんなど 第11回：物質誘発性精神障害及び関連障害 第12回：発達障害、パーソナリティ障害など 第13回：睡眠障害など 第14回：検査など 第15回：治療、薬物療法など 【授業及び学習の方法】 授業内容は進行によって適時変更します 【自学自習のためのアドバイス】 「自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)」			
教科書・参考書等 特に指定しません 参考書：			

公認心理士の基礎と実践シリーズ第22巻 精神疾患とその治療（公認心理師の基礎と実践）
野島 一彦，繁樹 算男他 遠見書房
※その他の公認心理士試験向けの「精神疾患とその治療」内容を含む本でも可
DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引（医学書院） 2014/10/23

オフィスアワー 火曜日 13時～16時（ただしアポイントメントお願いします）（基礎臨床研究棟）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

医療機関、特に精神科関連施設で働く場合には重要な科目です。

教員の実務経験との関連

精神科医としての長年の臨床経験から得られた実例についても触れながら講義を行います

ナンバリングコード B3MED-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 780400) 心身医学 Psychosomatic Medicine	科目区分	時間割 後期火2	対象年次及び学科 3～ 医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3MED	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 神原 憲治	関連授業科目 早期体験学習 医学概論 人体の構造と機能及び疾病Ⅴ (心理援助職のための内科的疾患概説) 健康・医療心理学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 心身医学は心身相関 (心理と身体の関係) を基本概念とした医学であり、医療に適用した心療内科、疾患としての心身症やストレス関連疾患の基盤になる医学である。本科目では、心身医学の概念、心身相関の生理学、心身相関の評価とストレス学、心身症の病態及び疾患論、心療内科学及びその治療論について、心理支援との関連を踏まえながら講義を行う。概念だけでなく、心身相関の体験的学習及び具体的症例を用いた症例検討を行い、臨床的・実践的な理解を目指す。			
授業の目的 心と身体とは密接不離な関係にある。医療、産業、教育等の現場において、ストレス関連疾患及び心身症は増加の傾向にあり、心理臨床において心身医学の基本的知識は必須のものとなっている。また、心と身体の関係の理解は、ストレス社会と言われる現代を生きる上で必要なストレスマネジメントにおいても重要である。それを踏まえて本科目では、心身医学の基本概念、心身相関、ストレスと疾患の関連機序などの基礎的概念の理解と臨床的側面、心身相関の研究の現状と方法等について、心理支援において必要な心身医学の知識と実践的な理解を深める			
到達目標			
1. 心身医学、心身症、心療内科の定義について説明できる。(DP「知識・理解」に対応) 2. 心身症の病態、及び他の精神疾患等との違いについて説明できる。(DP「知識・理解」に対応) 3. 心身相関の基礎的概念やその生理機序について例を用いて説明できる。(DP「知識・理解」に対応) 4. 心身相関についての精神生理学的測定と解釈ができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. ストレスの身体への影響及びストレス反応について例を用いて説明できる。(DP「知識・理解」に対応) 6. 代表的な心身症、ストレス関連疾患、機能性身体疾患について症例検討ができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 7. 心療内科臨床の概要と心理支援との関係について説明できる。(DP「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 ミニレポート及び体験学習への取り組み(50%)、最終試験(50%)により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 <総論> 第1回 心身医学総論① (心身医学、心身症、心療内科とは) 第2回 心身医学総論② (心身医学の基礎) 第3回 心身医学総論③ (心身相関の精神生理学的体験学習) <病態論> 第4回 心身症病態論① (情動理論と身体論) 第5回 心身症病態論② (応用精神生理学と心身医学) 第6回 心身症病態論③ (心身症の病態とバイオフィードバック) <ストレス学>			

- 第7回 ストレス学①（ストレスとホメオスタシス）
 第8回 ストレス学②（内受容感覚と心身の気づき）
 第9回 ストレス学③（生理及び心理的ストレス反応）
 <疾患論>
 第10回 疾患論①（代表的な心身症と身体症状（1））
 第11回 疾患論②（代表的な心身症と身体症状（2））
 第12回 疾患論③（機能性身体症候群とストレス関連疾患）
 <治療論と心療内科学>
 第13回 治療論と心療内科学①（心療内科における心理支援）
 第14回 治療論と心療内科学②（心身医学的評価とアプローチ）
 第15回 総括

【授業の方法】

講義は教科書とプリント、スライド、板書を用いて行う。

講義に加えて、グループ分けを行い、心身関連の病態を可視化して体験できる応用精神生理学（バイオフィードバック）システムを用いた体験的学習、ケース検討を行い、概念だけでなく体験的な理解を目指す。

○この科目は基本的に対面授業を予定しています。なお状況によっては授業形態を一部または全てを遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

事前学習（各回1時間以上、計30時間）

- ・第1回、第2回 教科書の「II 心身医学の基礎」の部分进行学习（予習・復習）する。
- ・第3回、第5回、第6回 教科書「II 心身医学の基礎」に加え、参考書①の「バイオフィードバック」についての章进行学习する。
- ・第4回、第7-9回 参考書②を中心に学習する。
- ・第10-12回 教科書の「IV 心身症各論」を中心に学習する。
- ・第13-15回 教科書の「III 心身医学的診断と検査」「V 心身医学的治療法」を中心に学習する。

◎ほぼ毎回ケース検討を行うので、提示されたケースについては事前に学習し、担当ケースについては発表の準備をしておくこと。

事後学習（各回1時間以上、計30時間）

- ・授業中の議論内容や教員からのコメントを振り返り、心療内科領域の心理支援や研究に関する考察を深め、臨床や研究への応用を検討する。

計画に関しては、進捗状況、内容の理解度等によって変更することがあります。

教科書・参考書等

<教科書>

心身医学標準テキスト 第3版、久保千春編、医学書院、2009（本体9200円+税）

<参考書>

- ①心身医学用語事典 第3版【電子版】日本心身医学会用語委員会/日本心療内科学会学術企画委員会(編)，三輪書店，2020
- ②心療内科学，日本心療内科学会(編)，朝倉書店，2022
- ③バイオフィードバックとリラクゼーション法，竹林直紀・神原憲治・志田有子，金芳堂，2011
- ④ストレスの肖像 環境と生命の対話，林峻一郎，中公新書，1993
- ⑤生理心理学と精神生理学

オフィスアワー 原則として、火曜日15:00-16:00。

その他、アポイントメントにより対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自発的、積極的な学習姿勢を期待します。

教員の実務経験との関連

心療内科医としての臨床経験に基づいて講義を行います。

ナンバリングコード B3MED-bcxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780450) 災害医学・緩和ケア Disaster Medicine, Palliative & Supportive care	科目区分	時間割 後期前半月4	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B3MED	DP・提供部局 bcx・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 辻 晃仁, 黒田 泰弘, 村上 あきつ, 柘植 薫, 長谷 綾子, 山下 明子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自宅自習 準備学習15時間+事後学習15時間			
授業の概要 緩和ケア：がんの治療や患者に関する心理社会的な知識と話題を提供し、実践の基礎を築く。 災害医療：災害医療の基本、救急医療との関連について知識と実践的理論、話題を提供し、意識を高める。			
授業の目的 緩和ケア：最新のがん治療や緩和医療、チーム医療を理解し、患者や家族に対する心理社会的アプローチを身につける。 災害医療：地震だけが災害ではないことを認識し、多数傷病者が発生する場合も災害医療の概念が必要であることを理解し行動できる。			
到達目標			
緩和ケア：がん患者さんの病状を理解した上で、心理学的介入ができる。 災害医療：災害医療と救急医療の違いを理解し、多数傷病者事例への対応を身につける。 (DP「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法 講義内での質疑応答20%、レポート80%			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 講義資料、PowerPointなどを用いて教員が講義形式で授業を行います。			
【授業計画】 緩和ケア 1、緩和ケアの定義、概念および現状 (辻 晃仁) 2、緩和ケアとがん患者の身体的特徴および精神的特徴 (辻 晃仁) 3、緩和ケア介入における患者、家族ケアの特徴 (村上 あきつ) 4、緩和ケアにおけるチーム医療 (柘植 薫) 5、緩和ケア介入患者の心理的特徴 (柘植 薫)			
【自学自習に関するアドバイス】 事前学習 「国立がん研究センター がん情報情報サービス 緩和ケア (一般の方へ)」を参照し、予習する (10時間)。 https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/relaxation/index.html (2022. 3. 30アクセス) (事後学習) 授業中の質問に答えられなかった箇所や問題意識を持った話題について、所定の資料を参照し、学習する (10時間)			
災害医療 6、災害医療の基本と救急医療との違いについて (黒田泰弘) 7、トリアージについて (黒田泰弘) 8、災害医療における現場タオ言うと情報共有戦略について (黒田泰弘)			

<p>【自学自習に関するアドバイス】 (事前学習) 講義の前には救急医療・集中治療・災害医療の関連話題について予習する(5時間)。 (事後学習) 授業中の質問に答えられなかった箇所や問題意識を持った話題について、所定の資料を参照し、学修する(5時間)。</p>
<p>教科書・参考書等 緩和ケア：なし 災害医療：なし</p>
<p>オフィスアワー 緩和ケア：月16：00～17：00 災害医療：火16：00～17：00</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ 緩和ケア：人生の最終段階に至るまでの医療に対する知識の確認とそれを臨床心理学に起用した実践を身につけてください。 災害医療：身近な事例をイメージして災害医療への理解を深めてください。</p>
<p>教員の実務経験との関連 担当教員は全員、附属病院で医療に携わっている。病院で緩和ケアに携わっている医師や心理職が、当講義の緩和ケアに関する5回分を担当し、救急医療に携わっている医師が当講義の災害医療に関する3回分を担当する。</p>

ナンバリングコード B3MED-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 780460) 医療薬理学 Clinical Pharmacology	科目区分	時間割 後期後半木1	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心 理学科
	水準・分野 B3MED	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 芳地 一, 竹森 元彦	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習10時間+事後学習20時間)			
授業の概要 この授業は、医薬品の作用・副作用の機序を学ぶことを目的としている。医療において、医薬品を用いることは必須である。また、麻薬や覚せい剤などの習慣性・依存性の薬物に対する知識も重要である。薬全般にわたる知識の向上のための講義を実施する。			
授業の目的 この授業は、医薬品の作用・副作用の機序を学ぶことを目的としている。薬という異物が体内に入った場合の精神状態を理解するために、薬の作用機序等を学ぶ。			
到達目標			
1. 生体内物質の作用と意義を説明することができる (DP「知識・理解」に対応) 2. 医薬品の作用・副作用を説明することができる (DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 疾病とその治療薬について説明することができる (DP「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 小テスト50%、レポート50%			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回 医薬品総論 (医薬品の作用原理とその影響) 第2回 医薬品総論 (医薬品の適正な使用に向けて) 第3回 主な生活習慣病に使用する薬、がんや痛み使用する薬 (循環器障害について) 第4回 主な生活習慣病に使用する薬、がんや痛み使用する薬 (脳血管障害について) 第5回 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 (てんかん・パーキンソン病について) 第6回 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 (アルツハイマー病・精神病について) 第7回 アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬 第8回 消化器系疾患に使用する薬			
【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めます。 受講生の理解を助けるために適宜質疑の時間を取り入れます。 この科目は基本的に対面授業を行います。 なお状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 事前学習 10時間 事後学習 20時間			
教科書・参考書等 臨床薬理学 疾病の成り立ち② (MCメディカ出版) 3400円 ISBN978-4-8404-5375-2 C3347 編者 古川裕之 他			
オフィスアワー 金曜日16:00～17:00 houchi@kph.bunnri-u.ac.jpにメール連絡も可			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

薬について多くの内容があります。時間をかけて学習してください。

教員の実務経験との関連

1986-1989 米国コロラド大学医学部、1989-1997徳島大学医学部（助手・講師）、1997-2005徳島大学病院（助教授）、2005-2021香川大学医学部附属病院（教授）、2021-現在 徳島文理大学香川薬学部（教授）
上記の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B4PSY-cbaM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 780490) 臨床心理学基礎研究 I Basic Seminar in Clinical Psychology I	科目区分	時間割 前期月5	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B4PSY	DP・提供部局 cba・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子, 林 智一, 橋本 忠行, 山田 俊介, 竹森 元彦, 坂中 尚哉, 谷渕 真也, 長谷 綾子, 神原 憲治, 野口 修司, 角 徳文	関連授業科目 臨床心理学基礎研究 II 心理学研究法特論		
履修推奨科目			
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 卒業論文作成に向けて文献購読、発表、質疑応答等を行います。それらをもとに、研究テーマの明確化・決定、研究方法の明確化・準備及び実施、結果の整理・分析、考察、卒業論文の執筆を進めていきます。			
授業の目的 所属の各教員が個別に設定するゼミで、卒業論文のテーマ設定・論構成についてのアドバイスを受けることで、論文を執筆することを目的とします。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義や実習・見学などを通して学んだことや体験したことを基礎として、さらに、関連する文献や図書を読み、自らの問題意識について文章化あるいは言語化して伝わるように整理する。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 自分の問題意識を発表し、グループ討議などを通して、他者の意見をもらったり、卒論を組み立てる上で必要な視点や指摘を受けることで、研究テーマとしてよりよい内容に発展させることができる。(DPの「言語運用能力」に対応) 3. 研究テーマについてより明確化すると共に、そのテーマに見合った研究方法の明確化・準備をすることができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 研究テーマについて、それに見合った研究方法に従って研究を実施し、その結果の整理・分析することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 研究テーマについて、得られた結果を考察することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. 1～5のことを踏まえて、卒業論文を執筆することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法 毎回の発表・討議への取り組み(50%)、卒業論文への取り組み(50%)により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業及び学習の方法】 ゼミ形式により行う。 ゼミの教員の指導のもとに発表や議論を行って、研究テーマの明確化・決定、研究方法の明確化・準備及び実施、結果の整理・分析、考察、卒業論文の執筆につなげる。			
【授業計画】 第1回. オリエンテーション 第2回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議① 第3回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議②			

- 第4回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議③
 第5回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議④
 第6回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑤
 第7回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑥
 第8回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑦
 第9回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑧
 第10回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑨
 第11回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑩
 第12回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑪
 第13回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑫
 第14回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑬
 第15回. まとめ

【自学自習のためのアドバイス】

毎回、学生が自分のテーマについて発表して、それに基づいてグループで討議をする。グループ発表をするためには、自分なりにまとめる必要があり、ゼミの学生からの助言や質問を大切に受け入れて、自分なりに納得のいく研究テーマを目指す。また、ゼミ指導教員から助言をもらう。

他の人の発表であっても、自分の問題としてとらえて、そのテーマであれば自分ならどうかんがえるのか、発表者はどのような工夫を行っているのか、先行研究をレビューしてどのように新たな問題意識を見出しているのか、分析の方法として、量的分析を行うのか、質的分析を行うのか。

それらの手続きや配慮すべき重要な視点、例えば、質問紙調査の統計の方法、インタビュー調査の上での倫理的な課題など、卒論を書くうえでの重要な手続きについても、各学生の発表から学べる点を吸収する。

そして、自らの卒論の問題意識を明確にし、それを具体化する研究方法について組み立てていく。研究方法については、研究方法論にも常日頃から関心をもち、分析の方法についても、よく似た先行研究を参考にある程度身に付けておく。

そのテーマと関連する先行研究を集めて、どのような傾向があるのかを分析して、自分のテーマがどのような位置づけにあるのかを明確にする。問題の意義やオリジナリティあるテーマを目指す。

研究倫理には、十分に配慮する。

これらの自己の模索を通して、自分の納得いくテーマに取り組み、心理学的研究方法に則って、世界に一つの研究をまとめるように努力する。

教科書・参考書等

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー ゼミの時間の後の時間に質問・相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の関心・問題意識をもとに主体的に取り組むことが望まれる。また、討議にも積極的に取り組むこと。対面授業を基本とするが、状況に応じては、また、教員によっては、オンラインとなることもある。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B4PSY-cbaM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 780500) 臨床心理学基礎研究Ⅱ Basic Seminar in Clinical Psychology Ⅱ	科目区分	時間割 後期月5	対象年次及び学科 3～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B4PSY	DP・提供部局 cba・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子, 林 智一, 橋本 忠行, 山田 俊介, 竹森 元彦, 坂中 尚哉, 谷淵 真也, 長谷 綾子, 神原 憲治, 野口 修司, 角 徳文	関連授業科目 臨床心理学基礎研究Ⅰ 心理学研究法特論	履修推奨科目	
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 卒業論文作成に向けて文献購読、発表、質疑応答等を行います。それらをもとに、研究テーマの明確化・決定、研究方法の明確化・準備及び実施、結果の整理・分析、考察、卒業論文の執筆を進めていきます。			
授業の目的 所属の各教員が個別に設定するゼミで、卒業論文のテーマ設定・論構成についてのアドバイスを受けることで、論文を執筆することを目的とします。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義や実習・見学などを通して学んだことや体験したことを基礎として、さらに、関連する文献や図書を読み、自らの問題意識について文章化あるいは言語化して伝えるように整理する。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 自分の問題意識を発表し、グループ討議などを通して、他者の意見をもらったり、卒論を組み立てる上で必要な視点や指摘を受けることで、研究テーマとしてよりよい内容に発展させることができる。(DPの「言語運用能力」に対応) 3. 研究テーマについてより明確化すると共に、そのテーマに見合った研究方法の明確化・準備をすることができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 研究テーマについて、それに見合った研究方法に従って研究を実施し、その結果の整理・分析することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 研究テーマについて、得られた結果を考察することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. 1～5のことを踏まえて、卒業論文を執筆することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法 毎回の発表・討議への取り組み(50%)、卒業論文への取り組み(50%)により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業及び学習の方法】 ゼミ形式により行う。 ゼミの教員の指導のもとに発表や議論を行って、研究テーマの明確化・決定、研究方法の明確化・準備及び実施、結果の整理・分析、考察、卒業論文の執筆につなげる。			
【授業計画】 第1回. オリエンテーション 第2回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議① 第3回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議②			

- 第4回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議③
 第5回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議④
 第6回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑤
 第7回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑥
 第8回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑦
 第9回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑧
 第10回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑨
 第11回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑩
 第12回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑪
 第13回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑫
 第14回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑬
 第15回. まとめ

【自学自習のためのアドバイス】

毎回、学生が自分のテーマについて発表して、それに基づいてグループで討議をする。グループ発表をするためには、自分なりにまとめる必要があり、ゼミの学生からの助言や質問を大切に受け入れて、自分なりに納得のいく研究テーマを目指す。また、ゼミ指導教員から助言をもらう。

他の人の発表であっても、自分の問題としてとらえて、そのテーマであれば自分ならどうかんがえるのか、発表者はどのような工夫を行っているのか、先行研究をレビューしてどのように新たな問題意識を見出しているのか、分析の方法として、量的分析を行うのは、質的分析を行うのか。

それらの手続きや配慮すべき重要な視点、例えば、質問紙調査の統計の方法、インタビュー調査の上での倫理的な課題など、卒論を書くうえでの重要な手続きについても、各学生の発表から学べる点を吸収する。

そして、自らの卒論の問題意識を明確にし、それを具体化する研究方法について組み立てていく。研究方法については、研究方法論にも常日頃から関心をもち、分析の方法についても、よく似た先行研究を参考にある程度身に付けておく。

そのテーマと関連する先行研究を集めて、どのような傾向があるのかを分析して、自分のテーマがどのような位置づけにあるのかを明確にする。問題の意義やオリジナリティあるテーマを目指す。

研究倫理には、十分に配慮する。

これらの自己の模索を通して、自分の納得いくテーマに取り組み、心理学的研究方法に則って、世界に一つの研究をまとめるように努力する。

教科書・参考書等

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー ゼミの時間の後の時間に質問・相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の関心・問題意識をもとに主体的に取り組むことが望まれる。また、討議にも積極的に取り組むこと。対面授業を基本とするが、状況に応じては、また、教員によっては、オンラインとなることもある。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B4PSY-cadM-20-Ep 授業科目名 (時間割コード: 780210) 心理演習V (コミュニティ・アプローチ演習) Seminar in Psychology V (Community Approach)	科目区分	時間割 前期月4	対象年次及び学科 4～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B4PSY	DP・提供部局 cad・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 2	
担当教員名 野口 修司, 谷渕 真也, 橋本 忠行	関連授業科目	心理演習IV (グループ・コミュニケーション演習)	
	履修推奨科目	心理演習IV (グループ・コミュニケーション演習)	
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 公認心理師の業務のうち、コミュニティ・アプローチに関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的する。演習では、集団対象の予防的な心理教育の計画立案や実施、災害時の心理的支援を扱う。			
授業の目的 第一に、公認心理師法第2条に規定される業務のうち「心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと」に必要な知識や技能の修得する。第二に、危機介入や予防的介入に必要な知識や技能の修得する。			
到達目標			
1. 心理教育やコミュニティ・アプローチを実践する際の理論的背景について心理職以外にも伝わる平易な言葉で説明できる (DP「言語運用能力」に対応) 2. 地域社会や組織で実際に行われている心理教育を倫理的配慮をもって実施できる (DP「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 地域社会や組織の抱える問題について心理教育やコミュニティ・アプローチの観点から解決法を提案できる (DP「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 小テスト (到達目標1) 30%, レポート_1 (到達目標2) 35%, レポート_2 (到達目標3) 35%			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
括弧内は主に担当する教員名です。 本授業はすべて対面で実施します。 【授業計画】 <全体> 第1回 オリエンテーション, コミュニティ・アプローチ概説 (谷渕) 第2回 心理教育およびコミュニティ・アプローチの理論的背景 (1) (谷渕) 第3回 心理教育およびコミュニティ・アプローチの理論的背景 (2) (谷渕) 第4回 危機介入の理論的背景 (野口) 第5回 理論的背景のまとめと議論 (谷渕) 第6回 心理教育の実践演習 (1) 計画立案 (谷渕) 第7回 心理教育の実践演習 (2) 事前準備1 (谷渕) 第8回 心理教育の実践演習 (3) 事前準備2 (谷渕) 第9回 心理教育の実践演習 (4) 実施 (谷渕) 第10回 心理教育の実践演習 (5) 振り返り (谷渕) 第11回 災害時のコミュニティ・アプローチ実践演習 (1) 計画立案 (野口) 第12回 災害時のコミュニティ・アプローチ実践演習 (2) 事前準備1 (野口) 第13回 災害時のコミュニティ・アプローチ実践演習 (3) 事前準備2 (野口) 第14回 災害時のコミュニティ・アプローチ実践演習 (4) 発表 (野口) 第15回 災害時のコミュニティ・アプローチ実践演習 (5) 振り返り (野口)			

<p>【授業および学習の方法】 第1回～第5回：配付資料，パワーポイント等を用いて各テーマについての講義を行います。 第6回～第15回：心理教育，災害時のコミュニティ・アプローチについて演習を行います。 第10回と第15回後にレポート課題を出します。</p> <p>【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第1回～第5回では，配布資料等を用いて予習（各回2時間）と復習（各回2時間）を行ってください。第6回以降は，演習に関する調べ学習や資料準備，振り返りを各回4時間ずつ行ってください。準備学習や事後学習で疑問点や確認したい点があればオフィスアワー等を利用して積極的に担当教員とコミュニケーションしてください。</p>
<p>教科書・参考書等 特に指定しない。</p>
<p>オフィスアワー 谷淵：水曜2限目，野口：月曜日12:00～13:00</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ 演習科目ですから極力欠席しないよう体調管理等徹底してください。疑問点などはそのままにせず積極的に担当教員に尋ねてその都度解消してください。</p>
<p>教員の実務経験との関連 公認心理師，臨床心理士の資格を有し，地域社会や学校・企業等で心理教育およびコミュニティ・アプローチの実践経験があります。実務経験を基に講義・演習を行います。</p>

ナンバリングコード B4PSY-cadM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード: 780420) 心理実習Ⅱ (チーム医療実習) Practical Training in Psychology Ⅱ (Team Medical Care)	科目区分	時間割 通年集中	対象年次及び学科 4～医(看・臨) 臨床心理学
	水準・分野 B4PSY	DP・提供部局 cad・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Pf	単位数 4	
担当教員名 神原 憲治, 角 徳文, 竹森 元彦, 長谷 綾子, 林 智一, 山田 俊介, 中村 祐, 日下 隆, 辻 晃仁, 太田 美里, 山下 明子	関連授業科目 心理実習Ⅰ		
履修推奨科目			
学習時間 2コマ×30回 (事前指導、事後指導を含む) + 自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 医学部附属病院及び地域医療機関において、多職種スタッフが働く医療現場での実習を通して、患者へのチーム医療を含むチームアプローチ、多職種連携と地域連携の現状、心理専門職としてのチーム内役割を理解するための実習を行う。実習後は振り返りを通じて自己の課題や心理専門職が抱える問題を議論し、それら課題を乗り越えるためにどうあればよいか、何が必要かを考える機会を提供する。授業は事前指導、施設実習、途中指導、事後指導にて構成されている。			
授業の目的 特定機能病院及び地域医療機関において実習を行うことによって、各機関の地域における役割と概要、また多職種によるチーム医療の実際、心理専門職の役割と職業倫理を理解し、問題意識を明確にする。 また「精神医学」「心身医学」「小児発達科学」「災害医学・緩和ケア」等医学系の講義や、基礎及び臨床心理学系の講義による知識と現場体験とが統合することを狙いとする。			
到達目標			
1. 病院と関係各科の歴史や役割、基盤とする法律などを説明できる (倫理観・社会的責任)。 2. 精神的・心理的問題を有する患者が抱える問題を系統だてて理解し、説明できる (言語運用能力/問題解決・課題探求能力)。 3. 精神的・心理的問題を有する患者へのチームアプローチの重要性を説明できる (言語運用能力/問題解決・課題探求能力)。 4. 多職種の職務を理解しチーム及び地域連携の重要性を説明できる (問題解決・課題探求能力)。 5. 公認心理師として職業倫理及び法的義務を説明できる (倫理観・社会的責任)。			
成績評価の方法 オリエンテーション、事前指導、途中指導、事後指導への参加・発表・討議 (40%)。実際の施設実習への参加の態度・記録 (40%)。最終レポート (20%)。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1) 附属病院実習オリエンテーション (2) 診療科別オリエンテーション (3) 学外病院実習オリエンテーション (4～5) 病院実習① (6～7) 病院実習② (8～9) 病院実習③ (10～11) 病院実習④ (12～13) 病院実習⑤ (14～15) 病院実習⑥ (16～18) 途中指導 (グループ別) (19～20) 病院実習⑦ (21～22) 病院実習⑧			

- (23～24) 病院実習⑨
 (25～26) 病院実習⑩
 (27) 事後指導（振り返り）
 (28) 事後指導（グループ討議）
 (29) 事後指導（発表準備）
 (30) 成果発表会

【授業及び学習の方法】

事前指導・途中指導・事後指導は対面で実施する。状況によっては遠隔に変更する可能性がある。
 実習は1グループ2～4名程度とし、医学部附属病院においては精神科神経科、腫瘍内科、小児科をそれぞれローテートする。地域医療機関も同じグループで実習を行う。
 実習前に計画書を提出し、実習中は記録を取る。実習後はグループで成果発表を行い、個人によるレポートを提出する。

【自学自習のためのアドバイス】（各回につき1時間ずつ。事前学習15時間、事後学習15時間）

- (1～3) 実習の進め方を理解し、実習機関について学習する。自身の課題を明確化し、計画を立てる。
 (4～15) 毎回の実習について実習内容と体験、学びを記録し、さらなる学習に努める。
 (16～17) 前半の実習を通して現場及び自身の課題を明確化し、発表・討議を行う。またその結果を整理し、学習を深める。
 (18) 後半の実習機関について学習する。前半を踏まえた自身の課題を明確化し、計画を立てる。
 (19～26) 毎回の実習について実習内容と体験、学びを記録し、さらなる学習に努める。
 (27～28) 自らを振り返り、グループでの討議を通じて学んだことを整理する。
 (29) 前半、後半の成果を整理し、発表準備を行う。
 (30) 全体を通じて得られた成果とさらなる課題を明確化し、最終レポートを作成する。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。

オフィスアワー 水曜日12:00～13:00（長谷研究室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

国家資格の受験要件に必須となる。施設実習だけでなく事前指導、途中指導、事後指導すべてに出席し、遅刻しないこと。実習中は自己管理に努めること。

教員の実務経験との関連

医療領域において医師または心理職として臨床経験を有する専門家であり、臨床心理士または公認心理師の資格を有する。

ナンバリングコード B4PSY-cbaM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 780510) 臨床心理学研究 I Advanced Seminar in Clinical Psychology I	科目区分	時間割 前期月5	対象年次及び学科 4～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B4PSY	DP・提供部局 cba・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子, 林 智一, 橋本 忠行, 山田 俊介, 竹森 元彦, 坂中 尚哉, 谷淵 真也, 長谷 綾子, 神原 憲治, 野口 修司, 角 徳文	関連授業科目 臨床心理学基礎研究Ⅱ 心理学研究法特論		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 卒業論文作成に向けて文献購読、発表、質疑応答等を行います。それらをもとに、研究テーマの明確化・決定、研究方法の明確化・準備及び実施、結果の整理・分析、考察、卒業論文の執筆を進めていきます。			
授業の目的 所属の各教員が個別に設定するゼミで、卒業論文のテーマ設定・論構成についてのアドバイスを受けることで、論文を執筆することを目的とします。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義や実習・見学などを通して学んだことや体験したことを基礎として、さらに、関連する文献や図書を読み、自らの問題意識について文章化あるいは言語化して伝わるように整理する。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 自分の問題意識を発表し、グループ討議などを通して、他者の意見をもらったり、卒論を組み立てる上で必要な視点や指摘を受けることで、研究テーマとしてよりよい内容に発展させることができる。(DPの「言語運用能力」に対応) 3. 研究テーマについてより明確化すると共に、そのテーマに見合った研究方法の明確化・準備をすることができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 研究テーマについて、それに見合った研究方法に従って研究を実施し、その結果の整理・分析することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 研究テーマについて、得られた結果を考察することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. 1～5のことを踏まえて、卒業論文を執筆することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法 毎回の発表・討議への取り組み(50%)、卒業論文への取り組み(50%)により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業及び学習の方法】 ゼミ形式により行う。 ゼミの教員の指導のもとに発表や議論を行って、研究テーマの明確化・決定、研究方法の明確化・準備及び実施、結果の整理・分析、考察、卒業論文の執筆につなげる。			
【授業計画】 第1回. オリエンテーション 第2回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議① 第3回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議②			

- 第4回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議③
 第5回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議④
 第6回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑤
 第7回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑥
 第8回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑦
 第9回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑧
 第10回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑨
 第11回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑩
 第12回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑪
 第13回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑫
 第14回. 各学生の関心内容に関する発表及び討議⑬
 第15回. まとめ

【自学自習のためのアドバイス】

毎回、学生が自分のテーマについて発表して、それに基づいてグループで討議をする。グループ発表をするためには、自分なりにまとめる必要があり、ゼミの学生からの助言や質問を大切に受け入れて、自分なりに納得のいく研究テーマを目指す。また、ゼミ指導教員から助言をもらう。

他の人の発表であっても、自分の問題としてとらえて、そのテーマであれば自分ならどうかんがえるのか、発表者はどのような工夫を行っているのか、先行研究をレビューしてどのように新たな問題意識を見出しているのか、分析の方法として、量的分析を行うのか、質的分析を行うのか。

それらの手続きや配慮すべき重要な視点、例えば、質問紙調査の統計の方法、インタビュー調査の上での倫理的な課題など、卒論を書くうえでの重要な手続きについても、各学生の発表から学べる点を吸収する。

そして、自らの卒論の問題意識を明確にし、それを具体化する研究方法について組み立てていく。研究方法については、研究方法論にも常日頃から関心をもち、分析の方法についても、よく似た先行研究を参考にある程度身に付けておく。

そのテーマと関連する先行研究を集めて、どのような傾向があるのかを分析して、自分のテーマがどのような位置づけにあるのかを明確にする。問題の意義やオリジナリティあるテーマを目指す。

研究倫理には、十分に配慮する。

これらの自己の模索を通して、自分の納得いくテーマに取り組み、心理学的研究方法に則って、世界に一つの研究をまとめるように努力する。

教科書・参考書等

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー ゼミの時間の後の時間に質問・相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の関心・問題意識をもとに主体的に取り組むことが望まれる。また、討議にも積極的に取り組むこと。対面授業を基本とするが、状況に応じては、また、教員によっては、オンラインとなることもある。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B4PSY-cbaM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 780520) 臨床心理学研究Ⅱ Advanced Seminar in Clinical Psychology Ⅱ	科目区分	時間割 後期月5	対象年次及び学科 4～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B4PSY	DP・提供部局 cba・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 川人 潤子, 林 智一, 橋本 忠行, 山田 俊介, 竹森 元彦, 坂中 尚哉, 谷淵 真也, 長谷 綾子, 神原 憲治, 野口 修司, 角 徳文	関連授業科目 臨床心理学基礎研究Ⅰ・Ⅱ 心理学研究法特論	履修推奨科目	
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 卒業論文の執筆に向けて文献購読、発表、質疑応答等を行います。それらをもとに、研究テーマの明確化・決定、研究方法の明確化・準備及び実施、結果の整理・分析、考察、卒業論文の執筆をします。			
授業の目的 所属の各教員が個別に設定するゼミで、卒業論文のテーマ設定・論構成についてのアドバイスを受けることで、論文を執筆をすすめます。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義や実習・見学などを通して学んだことや体験したことを基礎として、さらに、関連する文献や図書を読み、自らの問題意識について文章化あるいは言語化して伝わるように整理する。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 自分の問題意識を発表し、グループ討議などを通して、他者の意見をもらったり、卒論を組み立てる上で必要な視点や指摘を受けることで、研究テーマとしてよりよい内容に発展させることができる。(DPの「言語運用能力」に対応) 3. 研究テーマについてより明確化すると共に、そのテーマに見合った研究方法の明確化・準備をすることができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 研究テーマについて、それに見合った研究方法に従って研究を実施し、その結果の整理・分析することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 研究テーマについて、得られた結果を考察することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. 1～5のことを踏まえて、卒業論文を執筆することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法 毎回の発表・討議への取り組み(50%)、卒業論文への取り組み(50%)により評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業及び学習の方法】 ゼミ形式により行う。 ゼミの教員の指導のもとに発表や議論を行って、研究テーマの明確化・決定、研究方法の明確化・準備及び実施、結果の整理・分析、考察、卒業論文の執筆につなげる。			
【授業計画】 第1回. オリエンテーション 第2回. 各学生の卒業論文の調査に関する発表及び討議① 第3回. 各学生の卒業論文の調査に関する発表及び討議②			

- 第4回. 各学生の卒業論文の調査に関する発表及び討議③
 第5回. 各学生の卒業論文の調査に関する発表及び討議④
 第6回. 各学生の卒業論文の調査に関する発表及び討議⑤
 第7回. 各学生の卒業論文の調査に関する発表及び討議⑥
 第8回. 各学生の卒業論文の調査に関する発表及び討議⑦
 第9回. 各学生の卒業論文に関する発表及び討議⑧
 第10回. 各学生の卒論執筆に関する発表及び討議⑨
 第11回. 各学生の卒業執筆に関する発表及び討議⑩
 第12回. 各学生の卒論執筆に関する発表及び討議⑪
 第13回. 各学生の卒論執筆に関する発表及び討議⑫
 第14回. 各学生の卒論執筆に関する発表及び討議⑬
 第15回. 卒業論文の全体発表会に向けての討議

【自学自習のためのアドバイス】

毎回、学生が自分のテーマについて発表して、それに基づいてグループで討議をする。グループ発表をするためには、自分なりにまとめる必要があり、ゼミの学生からの助言や質問を大切に受け入れて、自分なりに納得のいく研究テーマを目指す。また、ゼミ指導教員から助言をもらう。

他の人の発表であっても、自分の問題としてとらえて、そのテーマであれば自分ならどうかんがえるのか、発表者はどのような工夫を行っているのか、先行研究をレビューしてどのように新たな問題意識を見出しているのか、分析の方法として、量的分析を行うのは、質的分析を行うのか。

それらの手続きや配慮すべき重要な視点、例えば、質問紙調査の統計の方法、インタビュー調査の上での倫理的な課題など、卒論を書くうえでの重要な手続きについても、各学生の発表から学べる点を吸収する。

そして、自らの卒論の問題意識を明確にし、それを具体化する研究方法について組み立てていく。研究方法については、研究方法論にも常日頃から関心をもち、分析の方法についても、よく似た先行研究を参考にある程度身に付けておく。

そのテーマと関連する先行研究を集めて、どのような傾向があるのかを分析して、自分のテーマがどのような位置づけにあるのかを明確にする。問題の意義やオリジナリティあるテーマを目指す。

研究倫理には、十分に配慮する。

これらの自己の模索を通して、自分の納得いく卒論執筆に取り組み、心理学的研究方法に則って、世界に一つの研究（卒業論文）をまとめる。

教科書・参考書等

必要に応じて紹介する。

オフィスアワー ゼミの時間の後の時間に質問・相談に応じる。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の関心・問題意識をもとに主体的に取り組むことが望まれる。また、討議にも積極的に取り組むこと。対面授業を基本とするが、状況に応じては、また、教員によっては、オンラインとなることもある。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B4PSY-cbaM-20-Ep 授業科目名 (時間割コード: 780530) 卒業研究 Graduation Thesis	科目区分	時間割 通年集中	対象年次及び学科 4～医(看・臨) 臨床心理学科
	水準・分野 B4PSY	DP・提供部局 cba・M	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 4	
担当教員名 川人 潤子, 林 智一, 橋本 忠行, 山田 俊介, 竹森 元彦, 坂中 尚哉, 谷淵 真也, 長谷 綾子, 神原 憲治, 野口 修司, 角 徳文	関連授業科目 臨床心理学研究 I, 臨床心理学研究 II		
	履修推奨科目 臨床心理学基礎研究 I, 臨床心理学基礎研究 II		
学習時間 卒業研究の遂行, 論文・資料等の作成, 発表会等の準備を行い, 180時間以上。			
授業の概要 ゼミごとに, 履修生が専門分野における一つの研究テーマに取り組んで成果をあげ, 報告書をまとめ, 発表するまでを指導します。			
授業の目的 心理学に関する研究課題を設定し, ゼミ指導教員の指導のもと研究を遂行し, その結果を卒業論文にまとめて発表することにより, 心理学分野に関する研究技能およびコミュニケーション能力を総合的に修得します。			
到達目標			
1. 心理学分野の研究テーマを設定し, テーマに応じた研究方法, 分析方法を用いて研究を遂行することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 2. 自分の研究を発表会や論文執筆を通して公表し, それに関する討議を行うことができる。(DPの「言語運用能力」に対応) 3. これまでの専門科目での学びを応用して, 心理学分野における自分の研究の理論的位置づけについて説明することができる。			
成績評価の方法 中間発表会, 卒業論文発表会, 卒業論文本体で公表された成果をもとに評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
全員に共通するスケジュールとして, 中間発表会, 卒業論文提出, 卒業論文発表会があります。これらの具体的な期日や方法は別途指定します。 上記以外の詳細な計画は, 大学院入試, 就職活動, 他の科目の履修状況など個々の学生の事情に応じて, ゼミ指導教員と相談の上, 学生が自ら作成してください。 以下は典型的な一例です。 4～6月: 研究テーマの設定と方法の具体化 6～10月: 研究の実施 10～12月: 結果の分析と解釈 12～2月: 論文作成および発表			
教科書・参考書等 ゼミ指導教員が個別に指定します。			
オフィスアワー ゼミ指導教員が個別に指定します。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 対面授業を基本としますが, 状況に応じてオンラインとなることもあります。			
教員の実務経験との関連			